



蘭使日本紀行

四

ル 3
1140
4



印 3
1138
17

門 3
1140
4



カ故ニ之ヲ兼諾スルヲ肯セス。愈後兵ノ到着ヲ
企望ス。
公方ハ此不忠忘恩ノ人ヲ嫌トセス。信長ハ勝ニ
乗シテ公方御館ヲ捕一テ速カニ日本冠ヲ戴カ
ントス。飛檄以テ勝報ヲ四方ニ告テ三十候ヲ招
ク。實ニ千五百七十三年ナリ。然レ氏未ク公方ノ
位ニ登ラ天正元年スシテ躊躇ス。衆侯肯テ服従セス。何ト
ナレハ誓約ニ背キ所領地ヲ自意ニ任セテ妄ニ
處置シ且高慢ニシテ自ラ佛ニ托シテ公方ノ冠
ヲ己レノ肖像ニ置キジユボ村ニ一寺ヲ建築ス

ル。前ニ既ニ説クカ如クナレハナリ。
此諸件ノ外尚更ニ衆怨ヲ引ク所以アリ。蓋シ坊
主ヲ困死ニ陥ラシムルナリ。公方御館ノ生命ニ
於テモ尚然リ。曾テニ充僧アリ。大ニ此事ヲ進捗
セシム。抑モ比叡山ハ極テ高峻ナリ。京都ノ東ニ
時行程ニアリ。今ヲ距ル。一八百年前。日本皇帝大
ニ佛ヲ信スルヨリ。終ニ三千八百寺院ヲ此地ニ
建設セリ。各寺僧房アリ。世事ニ關係セズ。專ラ學
事ニ勉強ス。諸民牛馬ヲ以テ遠地ヨリ諸要品ヲ
運輸ス。而ルニ少許ノ音聲モ勤學ノ妨碍トナル

一キヲ以テ。比叡山ノ麓ニ二村ヲ開ク。上坂本。下
坂本。是ナリ。之ヨリ諸食料。及日用必需品ヲ供セ
シム。又近江國歳貢三分ノ一ヲ所用ニ給ス。此収
納年々次第ニ增多ス。何トナレハ王子或ハ他貴
族ノ人多ク此寺ニ寄寓スルニ由ルナリ。總計頗
ル巨大ナリ。故ニ威權日ニ加ハリ。京都ノ政務ハ
坊主ノ關係スル所タルニ至ル。凡ソ佛教ニ關ス
ル諸可否。皆決テ之ニ取リ。學者僧トナルニハ。皆
之ニ頼ル。

至星霜ヲ經歷スルト。殊ニ戰爭ノ為ニ曾テ比叡山

頂上十五ヶ所ニ散在セル多数ノ寺院次第ニ滅
シ終ニ八百ニ至リ又坊主ノ行状モ隨テ放肆ト
ナリ破戒淫酒醜聲汚行制限ナシ或ハ佛經ヲ典
シ兵器ヲ購ヒ鬪争ニ從事スルノミナラス更ニ
盜賊トナリ行人ノ貨財ヲ掠奪スルニ至ル又内
裡ノ許可ヲ得ルニ非スノ日本全國ニ募金シ
五百三十五年ニハ京都ヲ侵襲シ全市ヲ焼キ人
ヲ殺シ乳児ヲモ免サハルニ至レリ
此ノ如キ惡業固ヨリ處刑ヲ免カルヘキニアラ
ス後三十六年ニ終ニ潰崩セリ何トナレハ信

長トホシーン王トノ間ニ大ニ戦争起リタル時
僧徒ホシーン王ニ加擔シ固執シテ信長進軍ノ
路ヲ塞ク信長怒テ多員ノ僧徒ヲ射且ツ之ヲ磔
刑ニ處セリ
信長此ノ如キ血浴ニモ足レリトセヌ多勢ヲ率
ヒ更ニ新兵ヲ加工助ケテ比叡山ニ向ヘ進ム坊
主之ヲ防クニ力足ラサルヲ以テ屈伏シ使者ヲ
送り巨額ノ金ヲ捧テ歎願スル所アリ信長怒テ
之ヲ聽カヌ尚兵ヲ進ム彼此ノ比叡山ニ在ル寺
院ハ數百年來衆庶ノ信仰スル所ニシテ土地ノ安

全ヲ守護スル所ナリトテ大ニ佛徳ヲ賞讃スレ
氏。信長之ニ答テ曰ク。余豈ニ金ヲ捧ケシムル為
ナラシヤ。又諸佛ノ笑ノ一キ妄言ヲ信スル者ナ
ラシヤ。唯坊主ノ抗拒セシヲ復讐スルノミ。是天
ノ許サハル所ナレハナリト。

後信長護身ノ為ニ比叡山ノ頂上ニ有名ナル河
彌陀ノ子ナル觀音ヲ安置スル為ニ一ノ美麗ナ
ル寺院ヲ建立ス。此像ニハ三十臂及三十手アリ
面貌美少年ノ如シ。胸上ニ七個ノ人首ヲ掛ク。每
手ニ矢ヲ握ル。金冠ニハ寶石ヲ粧装ス。日本人諸

國ヨリ群集參詣シ。此像ヲ禮拜ス。蓋シ其擁護ス
ル所ニ由テ慶福ヲ受ケ長壽ヲ保クニテ祈ル
ナリ。坊主ハ年々大祭ヲ執行シテ之ヲ誇張ス。此
時日本全國ヨリ群集スルノ人員ハセルシユス
モ思ハサル所ナル一シ。又アベージユスノ礁印
ノ燈火ニテ百萬以上ノ波斯人ヲ教フト云フモ
之ニ及ハサル一シ。又テイルラク土耳其帝バヤ
セトニ向テ四十萬ノ韃靼騎兵六十萬ノ歩兵ヲ
指揮セシメテ亦之ニ及ハサルベシ。此祭事
ハ行装極テ美々ナリ。大段ニテモ觀音堂及ヒ像

ヲ設ク然レ此全ク其狀ヲ異ニス抑モ同一佛ヲ
各地ニ於テ各様ニ製スルハ日本人ノ習慣ナリ
⑤信長ハ坊主ノ請フ所ニ關セス前記ノ山上觀音
堂ノ周圍ニ曾テ抗拒セシ諸人ヲ招集シ上下ノ
坂本ニ村ニ火ヲ放テ兵卒ヲ山上ニ進ノ更ニ四
方ニ配置シテ一僧ヲモ適亡スルヲ能ハサラシ
ム僧徒力ヲ盡シテ防禦スルモ攻撃盛強ナルカ
為ニ或ハ疲勞シ或ハ竄走シ壁ノ一隅守ヲ失セ
リ敵兵之ニ乘シテ殺傷甚ナシ兵火延テ觀音堂
ニ及フ比叡山ヨリ適亡スル者アルモ尚殺戮ヲ

免カレス是信長諸道ニ注目シ之ヲ制スレハナ
リ或ハ恰モ野獸ノ如ク峻山幽谷ヲ跋渉シ一時
殺戮ヲ免カルモ終ニ饑餓ノ為ニ斃ル信長尚以
テ飽クトセス
更ニ火ヲ放テ四百以上ノ寺院ヲ燒ク之ニ附屬
スル堂宇及比叡山觀音堂皆災ニ罹レリ火焰天
ヲ衝ク猶カイサル不口ノ暴行ノ活圖ヲ見ルカ
如シ是三百年前テサノネスロノ之ヲ燒ク
ノ後此市街ニ回其近侍史ノ為ニ放火セラレタ
ル所ナリ此時火焰消滅セサルヲ六日七夜ナリ

寺院堂宇及貴重ナル記念碑モ皆崩潰セリ。ネロ
羅馬帝位ニ登リ當時ノサト稱ス暴行多シト口
エトシヌヲ亡スカ如キハ悲哀スヘキノ一詩科
トナレリ。此敵山ノ狀亦想像スヘシ。多數ノ寺院
及堂宇ハ七百年前ノ建築ニシテ多クハ帝家ノ寄
附スル所。皆巨額ヲ費ヤシ之ヲ堆積セハ天ニ違
スヘキ者ナルモ皆烏有ニ歸セリ。其災ハ千五百
七十一年八月二十八日ナリ。
^五此ノ如キ所業ノ後信長京都ニ入ル之ヲ距ル
十五里ニ有名ナル僧徒タキユノウチサミドノ

アリ。釋迦ノ一宗派ヲ唱ノ之カ為ニ妻ヲ棄テ髮
髭ヲ除去スルノ尋常式ニ據ル。學徒隨從スル者
四百人私財ヲ棄テ一美寺ヲ建ツ。人民隨喜スル
者多シ。此ノ如キヲ以テ頗ル放肆ナリ。公方御館
ノ為ニ大ニ尾張候信長ヲ制セント謀ル。落書シ
テ曰ク信長ハ實ニ極位ニ昇レリ。猶梨子ノ囊中
ニ在ルカ如シ。豈ニ久シキヲ保タシヤ。速カニ潰
爛スヘキナリト密ニ之ヲ信長ニ示ス者アリ。信
長烏ソ之ヲ恐ハン。忽チ大ニ怒ル。則洛外ニ於テ
ウチサミドノヲ捕ヒ責ルニ誅謗スルヲ以テシ

テ。終ニ寸断セリ。此ノ如クスルモ尚ホ夕熱心ヲ
消スルニ足ラス。既ニ放棄シタル妻子ヲモ夫父
ノ罪ノ爲ニ累連シテ。嚴刑ニ處セリ。其新築ノ寺
院及堂宇ヲ燒クモ。尚ホ夕快心ナラストス。
後久ヲシテ信長。又有名ナル大學校ハキユサン
ギンニ注目セリ。是六百年末坊主ノ連綿トメ衆
耀ヲ極ムル所ナリ。此學校ニハ各種ノ寺院アリ。
千人ヲ養フ。社大盛昌ナリ。從來属スル所ナシ。信
長之ヲ亡サントスルノ意アリテ。其機會ヲ待ツ。
偶一二ノ兇賊アリ。尾張ニ於テ竊盜シ去テハキ

ユサンギン寺ニ隱ル。此時ニ乘シテ之ヲ攻ント
スルニ僧徒ノ勢焰頗ル盛ナルヲ以テ。俄カニ着
手スルヲ得ス。之カ處置ヲ熟考ス。既ニ卒然ト
メ之ヲ襲ヒ。衆僧ヲ降伏セシメ。寺院ヲ燒キタリ。
則チ千九百七十三年是ニ於テ全國皆信長
ノ威風ニ靡ケリ。
然レモ全國抗拒スル者全クナキニアラズ。則チ
日本人大ニ尊奉スル所ノ僧徒アリ。意ニ隨ハス。
甲斐國ニ信玄アリ。最モ佛ヲ信仰ス。此人ハ曾テ
其父ヲ放逐シ。又其兄ヲ幽囚セリ。此二條ノ暴行

ニ因テ大ニ其名ヲ汚セリ。故ニ自ラ此汚名ヲ雪ク所以ヲ索ソサルヲ得ス。是ニ於テ佛門ニ入り。髮髭ヲ剃去シ。佛家ノ式ニ據リ。更ニ勤行シ。日々六百僧ヲ供養ス。是大ニ名譽ヲ釣ル所以ナリ。日本ニテハ諸侯ニシテ。日々三回拜佛シ。且寺院ノ為ニ盡クスル者。他ニ比ナキ所ナリ。是ヲ以テ衰^五頽セル佛教ヲ再興スルノ名噴々タリ。故ニ諸國ニテ。隨喜渴仰スル者多シ。就中近來比叡山ノ焼失セル寺院ヲ再建シ。又有名ナル寺院。觀音堂ヲ再建スルヲ以テ。大ニ世ノ稱スル所トナル。此事

各人ノ耳ニ徹スル所ナリ。何トナレハ比叡山ハ。元來大學校ニシテ。全國ノ博識者集會シ。生徒ヲ涵養シ之ヲ全國四方ニ派出スル所ナレハナリ。抑モ觀音堂ハ年々無数ノ信者參詣スル所ナレハ。其寄附スル所ノ金額頗ル莫大ナリ。人々争ヒ傳ヘテ。此事ヲ佛ヲ信スル人ニ相吹聴シ。各助贖スル所ナリ。各地各方ヨリ信者群集セリ。信長之ヲ喜ハス。此時信長ハ日本全國ヲ領スレハナリ。就中信玄ヨリ信長ニ書ヲ寄テ。記名スルニタシテ。ノ夕シ

羽柴紀事

上沙門信玄トス蓋シ王國及佛國庶民ノ大主宰
信玄トノ意ナリ信長ハ則チ之ニ答フルニダイ
ノキウテシノ魔王信長ト云フヲ以テス蓋シ魔
ノ王及昏迷ナル精神ノ主宰タル信長トノ意ナ
リ以テ之ヲ嘲ルナリ
信玄ノ外ニ明智アリ一將軍ナリ京都血ノ森此
事アリシヨリ此名起レリニ於テ信長ヲ弑シ更
ニ乱暴蹂躪スルノ後其妻子ヲモ殲盡セリ
信長ノ臣ニ一將アリ羽柴ト名ク此人後ニ將軍
ノ位ニ登リ一時大職ニ當レリ此羽柴ノ名ハ曩

テ信長ノ賜フ所ナリ曾テ命ヲ奉シ兵ヲ率テ天
草ヲ制スル中其用意既ニ備ハリ將ニ途ニ就カ
ントスルニ方テ新名ヲ請フ信長需ニ應シテ從
来稱スル所ノ藤吉郎ヲ改メテ羽柴トス蓋シ森
ノ上ノ羽毛ノ義ナリ抑モ天草候ハ森ト稱ス故
ニ今羽柴ト云フハ新將軍ノ能ク敵ヲ制服スル
ノ猶鳥ノ森上ニ飛フカ如シト云フ意ニテ其成
功ヲ期スルナリ
羽柴ハ始メ藤吉郎ト稱ス卑賤ニ生ルヤ時一農
家ノ雇奴タリ其近傍山林ニ入テ木ヲ伐リ薪ヲ

ヲ拾フヲ以テ務トス。山路險阻ニノ頗ル困苦ス。且日々所要ウナカラス大ニ之ヲ給スルニ悩ム。偶一日非常ノ大量ヲ要セリ。藤吉郎苦役ニ堪ユス。巧ニウ許ノ焚材ヲ以テ高度ノ熱ヲ得タリ。家主其伶俐ナルニ驚キ。意中竊カニ謂ク。此僮尋常奴隸ニアラス之ヲ軍事ニ使用セハ。必ラス大ニ為ス所アルニシト。若干ノ路費ヲ與テ去テ京都ニ赴キ仕ヲ求メシム。藤吉郎大ニ喜テ京都ニ至リ。一商家ニ雇ハル。後轉シテ一紳士ノ家ニ事フ。主人信長ノ親友ナリ。

屢相往來ス。曾テ一日兩將同シク獵ス。藤吉郎從フ。一美鷹アリ。偶誤テ喬木ノ枝ニ懸リ。其絆索足ニ纏リテ脱スルヲ得ス。鷹匠等百方構思スレテ之ヲ救フ所以ヲ知ラス。徒ラニ樹上ヲ眺ムルノミ主人藤吉ニ命シテ樹上ニ攀ケシム。其登攀スルノ輕捷ナルヲ信長及諸從者大ニ驚讚スル所ナリ。

是ヨリ後信長ニ隨從シ。漸次高位ニ登レルナリ。抑モ信長ノ之ヲ登庸スル多般ノ功アルニ由ル。曾テ城郭ノ破損セルヲ修理スルニ方テ大ニ信

長ノ賞ヲ得タリ。同寮之ヲ嫉ム。競馬以テ其技ヲ
挫キ。耻辱ヲ興ント謀リシニ。又敗ヲ取レリ。爰ニ
一機會アリ。同寮以テ彼ヲ退クヘキノ時トス。則
公家從來藏スル所ノ一寶刀。偶遺失シテ所在ヲ
知ラス。衆口唳々皆藤吉即ヲ疑フ。一友人アリ。説
テ一時城外ニ出テ。衆言ヲ避ケシム。是事却テ油
ヲ火ニ投スルカ如ク。此隱遁ヨリ愈他ノ疑念ヲ
固結シ。藤吉即ヲ盗ト称セサル者ナシ。是ニ於テ
冤名適ルヘキナシ。為ス所ヲ知ラス。藤吉四方ニ
奔走シテ。金銀職工ニ就テ。百方之ヲ探偵ス。久ク

シテ一買人。其鐔ヲ所持スルヲ見ル。是ヨリ遡テ
終ニ賊ヲ認ルヲ得タリ。藤吉ノ喜知ルヘシ。則チ
事ヲ廳ニ聞ス。前日ノ諛者ハ。日本式ニ據テ。刑ニ
處セラル。而シテ證據分明ナルヲ以テ。藤吉ヲシテ
賊ヲ截ラシム。藤吉則チ賊首ト寶刀トヲ保セ。捧
ク。是ニ於テ無根ノ誹謗消滅セリ。此事昇級ノ一
階トナレリ。
藤吉曾テ一地ノ宰タリ。事ヲ斷スル敏捷。敢テ停
滯セス。又敢テ邊幅ヲ饒ラス。世人大ニ之ヲ賞讃
ス。則チ高位ニ登ルノ漸ナリ。曾テ長濱城乱。黨ノ

田山所ト為ル。日々他ノ為ニ侵サレ。信長大ニ悩
ム。城將ニ陷ラントス。防拒ノ策殆ント盡ク。公謂
ラク藤吉ニ非サレハ能ハスト。遽カニ之ヲ招テ
議ス。衆長籠城ヲ期ス。然ルニ新將軍来ルニ及テ
致日ナラスシテ敵ヲ退散セシメリ。

後ニ天草軍ニ於テ大切アリ。信長ノ驚ク所ナリ。
信長京都ニ於テ弑サルニ及テ。日本兵馬ノ權終
ニ其手ニ歸セリ。其始信長ノ季子三歳児ヲ奉シ
テ之ヲ補翼シ以テ根基ヲ固クセリ。信長三子アリ
伯ハ父ト共ニ戦死シ。仲ハ痴ナリ。故ニ季ヲ奉

スルナリ。

柴田氏城。

信長ノ内戚ニ柴田アリ。尚存生ス。大ニ藤吉即ノ
企謀ニ抗拒ス。藤吉其居城ヲ重圍ス。之ヲ防クノ
策窮ス。則テ城中ノ衆ヲ招キ集メ告テ曰ク。藤吉
即ノ手ニ落サルニ方テ。余自裁セントス。余死セ
ハ。速カニ此體ヲ燒キ。無理非道人ノ手ニ觸レシ
ムルヲ勿レ。汝衆宜シク遁レテ生命ヲ保存セヨ。
天ト然レ。臣衆敢テ之ヲ聽カス。皆共ニ死セント欲
スト云フ。柴田殿大ニ其厚意ヲ感謝シ。訣別ノ宴
ヲ張リ。珍膳美肴。筵ニ満テ。唱歌舞躍競ヒ起リ。絲

竹管絃以テ耳口ヲ飽カシム。盤上酒茶意ニ任セ
テ飲マシム。宴終ルノ後薪炭焚抄ヲ堆積シ火ヲ
放ツ。火焰忽チ燭ル。是ニ於テ紫田殿先ツ妻子侍
妾宮女ヲ捕ヒ自ラ刀ヲ揮テ或ハ腹ヲ刺シ或ハ
胸ヲ貫キ或ハ寸斷ス。此ノ如キ暴行ハ侍臣亦其
妻子ニ施ス所ナリ。而シテ屍ヲ火中ニ投シ。後自ラ
腹ヲ割キ其上ニ倒レリ。藤吉郎城内火起ルヲ見
テ始ハ偶然火ヲ失スルナリトシ。此時ニ衆シテ
之ヲ侵スニ其門其壁敢テ之ヲ支フル者ナシ。進
テ城内ニ入ルニ屍体縦横ナリ。其景况恰モサギ

ユンチユス奮時ノ狀ヲ見ルカ如シ。
ア。ン。ニ。バル。三方ヨリ城ヲ攻ム。殊ニ廊下ニ近キ
低壁ニ向テストロム。トモノ城ヲ打崩スヲ施コ
シ。迫ル城兵ハ敵ヲ眼下ニ見テ大ニ殺戮ヲ恣ニ
ス。ア。ン。ニ。バル。誤テ自ラ鎗ニテ腿ヲ傷ク。依テ退
カサルヲ得ス。衆衆未テ之ヲ助ケ。治ヲ屢シ。速カニ
愈ルヲ得タリ。戦争復タ更ニ劇シ。日々一萬五千
ノ兵ヲ以テ交攻ム。サギユンテホルス諸方ヲ防カ
サル可ラス。敵兵ストロム。トモノヲ以テ諸所ヲ攻
メ。終ニ壁ヲ潰崩ス。三摠共ニ毀ル。市街彼此裸露

セリ。アンニバル全軍ヲ以テ之ヲ攻ム。サギユテ
ホルス破壁ノ間ニ在リ。方ニ死地ニ陥ルヲ以テ奮
激突戦シテ。却テ勝利ヲ得タリ。アンニバルハ曾
テサシク勝ヲ得ルヲ以テ既ニ此地ヲ押領セリ
ト假想シタルニサギユンテホルスハ毀タル壁ノ
市街ニ壯者ヲ置キ敵兵ヲ驅逐セサレハ敢テ一
歩ヲモ退カスト決意シ戦フ。愈劇シク矢ヲ放
ツ。頗ル盛ナルカ為ニ敵兵大ニ悩ノリ。
サギユンテホルス施ス所ノ矢ハ租ナル布ニテ卷キ
瀝青ヲ塗ルナリ。火ヲ放ツ。凡ソ觸ル所皆貫

ク。楯ヲ穿ツヲ以テ兵士楯ノ燒ルヲ恐レテ之ヲ
棄テサルヲ得ヌ。故ニ皆裸體トナル。此矢頗ル切
アリ。アンニバル退テ別策ヲ議ス。
兩軍相持シテ戦ハス。但シ城兵ハ日夜破壁ヲ修
理スルニ從事ス。既ニノ復タ一戦ヲ開ク。蓋シア
ンニバル兵卒ニ慰勞金ヲ與ヘ自ラ壁ニ接近セ
ル運輸スヘキ櫓上ニ在テ兵ヲ指揮シ。壁ヲ越テ
銃ヲ放チ石ヲ投ス。是ニ因テ勇氣ヲ奮起ス。又亞
弗利加人五名ヲシテ地ヲ堀リ壁ヲ穿タシメタ
ルニ。此事極テ容易ナリシ。何トナレハ其壁ハ石

灰ニテ製スル所ニアラス。數百年前ニ泥ニテ石ヲ墾スルニ過キサルヲ以テ忽チ破毀シ得タレハナリ。是ヨリカルタキニ一ル大ニ市中ニ侵入セリ。

然レ氏城兵ハ市街ヲ中斷シ破毀セル家屋ニテ一新郭ヲ造リ以テ再ヒ敵兵ヲ防ケリ。此ノ如キ重圍ヲ受クル一八月ニ及一ルヲ以テ要具缺乏倍甚クシク遠隔セル羅馬援兵ヲ俟ツノ念日々消ス。而シテ敵兵侵撃尚止マスマンニバルハ軍勢ノ一部ナルオレターネルス及カルベターネルスノ潰崩セ

ントスルヲ恐ルト虽マハルバルヒミルユウスノ子ハ一帶ノ兵ヲ引テ戦ヲ挑ミ三所ノ壁ヲ奪ヘリ之ヨリ兵ヲ進ノ一方ヲ占有セリ以テ謀テアンニバルト和ヲ講セシム敵將之ヲ肯セサリシニ西班牙人アロルキユス周旋ニ由リアンニバルハ金銀及財寶ヲ贈ラハ退去シテ其指示スル他國ニ赴クヘキヲサギンテ一ホルスニ約セリ。此講和ニ由テアロルキユスハ壁ノ建築ヲ休止セリ。衆吏會議ス人民好奇ノ念ヨリ争テ茲ニ群集ス評議ノ主タル一キ者教人其議事ニ関スル一ナリ。

逃亡シテ行ク所ヲ知ラス。諸貨賤ヲ市上ニ堆積
シ。火ヲ放テ之ヲ焼ク。是ニ於テ再ヒ混乱ヲ起セ
リ。又ストロムラムヲ以テ擣ヲ打崩スルニ及テ。城
内踰突ノ聲湧クカ如シ。亞弗利加勢壁ヲ穿テ。全
域裸露スルヲ以テ。衆皆市街ニ避ク。アムニバル
此報ヲ得テ。數千人ヲ引テ。速カニ城内ニ入レリ。
然レモ紳士ハ屋ニ火ヲ放テ。妻子ヲ燔死セシメ
テ曰ク。尚アムニバルノ劍ニ觸レテ死スルニ勝
ル所アリト。

藤言即此時柴田殿ノ焼城ニ於テ。サギユンチユス

ノ實地ヲ歴視スルノ想ヲ為セリ。次テ京都ニ凱
歸セリ。初名藤吉郎。後弟二名羽柴。是信長ヨリ賜
フ所ニ。少時間之ヲ用ヒタルニ。今之ヲ廢シテ。
關白殿ト稱ス。蓋シ日本ノ大公ノ義ナリ。後千五
百八十四年。太閤様ト稱ス。則日本大公主ノ義ナ
リ。十二年

今既ニ日本全國ヲ押領スト。尚其争亂アラ
ン。一ヲ恐ル。則チ大ニ有功ノ將士ヲ賞スルモ。我身
卑賤ヨリ出ル所ナルヲ以テ。他ヲ心服セシムル
一能ハス。今之ヲシテ。其異心ナカラシムルニハ

朝鮮之役
八道
京義道
ホーシヤイ
キアンキエ
シウロ
キングシヤン
カニエイシゲ
カオキウリ
ピンガン

他事ニ托シテ衆ヲ使役スルニ若カスト之ヲ熟
考スルノ後大同様方ニ嫌忌ナルノ諸候ヲシテ
遠征セシムルニ決意セリ
隣國高麗ニ事アラントス此半島ハ分テ八道ト
ス則京義道ホーシヤイキアンギエシウ
ンロキングシヤンカンゴイグカオキウリ及
ピンガン是ナリ此地北ハ韃靼領ニウセニ接シ南
ハヒコングマ島ニ隣ル西ハガロ海ニノ他ハ朝鮮
海ナリ支那人之ヲカオシト称ス長サ二百七
十獨シ里幅三十里京義道ニ首府ピンギヤン

グアリ全國人口多シ市街多クハ四角ナリ家屋
建築ノ法支那式ニ據ル衣服言語文字教法及政
法總テ全クコレルスニ倣フ是怪シムニ足ラスニ
百年前ニハ支那帝ニアオヒユスニ附属シタレ
ハナリ
魂魄萬物ニ移轉スルトノ説ハ高麗ニテモ唱フ
ル所ナリ其屍體ハ之ヲ柩ニ納メ大ニ之ヲ装飾
シ三年ニノ始テ之ヲ土中ニ埋葬スルナリ屍ノ
腐爛ヲ防クニ朱ヲ以テス高麗婦人ハ隨意ニ他
出シ男子ニ接ス零女ハ親戚及両親ノ見及ハサ

ル所ニテ。秘カニ情即ニ密會シ。或ハ恣ニ結婚ス
ル。了アリ。土地ハ富饒ナリ。年々米ヲ収獲スル。一
ニ回ニ及フ。又好紙。及朱ヲ産ス。此朱ハ支那人及
日本人以テ漆ニ和シ。器材ヲ塗ル所ナリ。
高麗ハ屢他國人ノ侵掠ヲ蒙ルレリ。近二十七年
前。支那ノ軍將マオヘシリユング氏。韃靼人ノ亂
ヲ避テ。此地ニ至リ。軍人ヲ各地ニ散亂シテ。隙ヲ
伺ヒ。虜ニ衆シテ。大ニ土人ヲ悩マセリ。土人此暴
徒ヲ防クノ策ナク。終ニ救ヲ韃人ニ請フ。韃人之
ヲ諾シ。多兵ヲ送り。土人ヲ前導トナシ。大ニマオ

ヘシリユングノ兵ヲ欺ケリ。マオヘシリユングハ前進
ノ兵ヲ見テ。我味方ノ勢ナリト做シ。油断シタル
ニ。忽チ不意ニ侵撃ヲ蒙ル。為ニ陣ヲ張ルニ及
ハスシテ。敗績セリ。但シ此戦争尚全勝ト云フ。一
キニアラス。韃人大ニ之ヲ破ルト。虽支那兵敢テ
隊ヲ亂スニアラス。直チニ海岸ニ向テ多勢ヲ舟
載シテ。他ニ走リタレハナリ。故ニ全勝ニアラス。
殊ニ此ノ戦争ニ巧ナル猛將ヲ遁走セシメタレ
ハナリ。彼亦高麗人ノ所業ヲ嫌トセス。早晚之ヲ
報ヒント謀レリ。

韃靼ニ近接シテ北方ニ四ヶ國アリ。共ニ侵掠スル所トナル。高麗王ハ韃人ノ首府ピングヤングヲ襲フニ方テ之ヲ防クノ策ヲ設ケリ。則チ其兵ノ通過スル一ヶ峽道ニ兵ヲ備ヘ。韃兵之ヲ過クルニ方テ急ニ之ヲ討ツ。高麗人勝ニ衆シテ大ニ之ヲ尾撃シ。將ニ全勝ヲ得ントスルニ方テ忽然トシテオヘンリユシク。大ニ鼓騷シ。来リ。韃兵ノ背後ヲ襲フ。韃兵四方ヲ顧ミルニ皆山ナリ。進ムヲ得ス。前面ニハ高麗人アリ。後面ニハ支那人アリ。急迫遁ル一ヶ十里シ。既ニノ其死ヲ決スルヲ以テ

大ニ勇ヲ奮テ激戦スルモ。終ニ勝ヲ得ス。支那人ニ破ラレ止ムヲ得ス。王國ニウセニ向テ遁走セリ。是ニ於テ兵ヲ集ムル一五萬ナリ。支那人及高麗人モ未夕以テ寧意ナル一能ハス。支那人ハ九萬ノ兵ヲ養ヒ。高麗人ハ七萬ノ兵ヲ備ヒ。遁亡セル韃人ヲ逐フノ策ヲ議ス。

天正十九年。千五百九十一年。太宗様此半島ヲ日本人ノ戰場ト爲セリ。蓋シ身卑賤ニ出ルヲ以テ諸侯ヲ制服スルニ難ク。或ハ謀ル者アル一キヲ慮リ。遠征以テ勇氣ヲ發泄センカ爲ニ此戦ヲ開キシナリ。謂

ラク高麗ヲ服從セハ内國ヲ安寧ナラシムヘシ
ト此ノ如キ大事件ヲ輕易ニ首做シ遠隔ナル高
麗ヲ膝下ニ屬セントシ十分ノ兵ヲ送レリ此時
尤モ厭ノ所ノ諸候ヲシテ此役ニ從事セシメリ
其勢六萬ナリ既ニ日本勢高麗ニ至リタルニ
頗ル多難敢テ容易ニ成功ス一キニアラス長陣
ナラサルヲ得ス太閤様屢書ヲ寄セ新兵ヲ増シ
送ル諸將士久時外役ニ在テ妻子ニ面接セス歎
地ニ在テ快々日ヲ消シ厭嫌歸志アレト許可ヲ
得サルヲ以テ尚滞在ス

既ニ兵ヲ高麗ニ送ラントスルニ方テ太閤様尚
大ニ勞神スルヲアリ其始書ヲ呂宋人ノ首長ニ
寄ス此人ハ西班牙王ノ命ニテマニルリアニ在
留スル所ナリ西班牙人ノ此島ヲ創見セシハ千
五百六十四年ニアリ之ヲ領スルニ大ニ勞セサ
禄七年蓋シ此地先ニハ支那ニ屬シ後無規則
ニ不羈トナルナリ此島ノ富饒ナルカ故ニ其領分
ニ非サルモ尚支那人ノ來テ貿易スル所ナリ年
々二十船内外ニ及テ綿絹陶器硫黃鍍銅麥粉水
銀ダールン彈藥麻布ヲ以テ鹿及他ノ獸皮麝猫ニ

換フルナリ。

太閤様書ヲ寄テ曰ク。日本ハ連年内亂アリタレ
氏。今方ニ靜謐トナリ。諸候割據分裂セシ者。始テ
一手ニ帰セリ。此事十年以内ニ整頓スル所ナリ。
今間暇ヲ得タルヲ以テ。是ヨリ支那ニ着手セン
トス。貴國若シ我命ヲ奉セハ。我兵決シテ貴領ヲ
侵掠スルヲナク。厚意ヲ謝スヘシ。若シ否サレハ
後日大ニ蹂躪スルニ至ルヘシ。請フ之ヲ撰ラベ
ヨ。
呂宋ノ主長。此書ヲ得テ大ニ惑フ。彼固ヨリ太閤

様ノ勇力威權ヲ知ル。今此ノニ條ノ問題ヲ解カ
ンニハ丁寧ニ答ヘサル可ラスト。此時不注意ニ
リユピユスデリアノニ命シテ送り遣リ曰ク。呂宋
ノ主長ハ太閤様ノ此書ヲ得テ熟考スルニ是日
本將軍ノ手ヨリ出タルニ非サルヘシ。其文意ヲ
以テ知ルヘシ。殊ニ長崎ニ在ルイソイテンケシ
モ。此事ヲ申シ送ラス。是諸輩ハ日本事件ヲ領知
スヘキ者ナリト。然レモアントウエルブノイソイ
トヨルネリスハサルトノ日本帝國事件ニ關係
スルカ如クナラス。自ラ別アリイソイテン何ニ

ニ由テ詳悉ニ日本秘事ヲ知テ之ヲ其國友ニ報
知スルヲ得ンヤ。是ニ於テ一ノ呂宋人ヲ薩摩
ニ送り嚴ニイソイテシテ苛責シ之ヲ太閤様ノ
聽ニ入ラシメリ何ニ由テイソイテシテ帝國ノ制
法ニ及シテ事ヲ執ルヲアラシヤ唯日本人ヲ教
化シテ基督教ヲ信仰セシムル爲ニスルノ之豈
ニ正シキ國法ヲ租界ニシ且終ニ歐羅巴人民ノ
國政ニ関スルカ如キヲアラシム可シヤ。
三 太閤様重テ嚴責ノ書ヲ呂宋人ニ寄セタリシニ
其船漂流モテ達セス然レモ此報知アルニ由テ

第二ノ使節ヲ送レリ其長ハベートトルコンサレ
スニノ四人ヲ伴フ共ニ僧官ナリバルドロソウ
スリユイスラフアンシユスキスデサニコトミカ
トレベートトルハプタスタ及ヒゴンサレスカ
シア是ナリ此輩千五百九十三年ニ太閤様ニ謁
セリ。此時進物莫大ナリ太閤之ヲ嘉納シ同宗人
ノ如ク京都外ニ於テ寺院ヲ建設スルヲ許セリ。
基督教法ヲ弘メサルヘキ約ニテ其年ニ於テ一
寺ヲ築キマリアフハンボルキエキエウヲ奉尊ス
然ルニ此約ニ關セス羅馬教法ヲ大ニ日本ニ宣

化セリ。是ニ於テ困難事件起レリ。則チ救援ヲマ
ニルラニボム。速カニフラスカネルスパウ
キユスチニユスロドリキユエスマルセルリユスリバデ
ネーフ及ヒトロネシミユスデイシユニ就テ呂
宋國王ノ書及進物ヲ太閤様ニ捧ケリ。進物ハ嘉
納サレタレ。臣書ハ意ヲ達スルヲ得サリシ。何ト
ナレハ返書中ニ答意ノ語アラサレハナリ。ペー
トルハブナス。尚僧徒ニ命シ。其教法ヲ擴張シ。
京都第一寺ノ外更ニ大阪ニテ第二寺ニテレヘ
ハ。長崎ニ第三寺ヲ築カシム。是大阪在苗ノ二僧

べートルバプタスタ及ヒトロネシミユスデイシユ。大
阪ノ氣候ニ堪ヘサルヲ以テ撰生スルカ為ニ轉
地スルナリ。長崎市外ニ旅舎ニ就テ日々市民群
集シ。說法ヲ聞ク。
ジダキユスコシノイハ日本ノ一貴人ニ近接スル
トヲ得タリ。此人ハ從來羅馬教法ヲ信仰スル所
ニテ。殊ニ京都周圍ノ地方ニテ大ニ之ヲ唱ノ。終
ニ最モ貴位威權アル人ノ兄弟ヲ教化シ。釋教徒
ノ需ニ應シテ。基督教法ヲ説クヲ主務トス。太閤
様亦呂宋人ヨリ送リタル此僧ノ日本地方ニ居

留スルヲ黙許セリ。之カ爲ニ年々大利ヲ得ルナ
リ。抑モ高麗島ニハボノニト名クル陶器ヲ産ス。
原價ハ極テ賤ナリ。然ルニ日本人ハ大ニ之ヲ黃
金視シテ。茶事ニ使用スルニ最モ適當ナリトス
ル所ナリ。此茶事ハ日本貴人ノ慰ニテ。之カ爲ニ
別室ヲ造リ。貴人自ラ手ヲ下シテ。客ヲ饗應スル
所ナリ。

太閤様此時ニ使テ呂宋人ニ送リ。所在ノ陶器ヲ
悉ク購求セシム。果ノ高價ナルヤヲ試シカ爲ナ
リ。之ヲ購求スル人マニルリア市中ニ於テ。日本

ノ基督教徒數名。此陶器ヲ求テ。日本ニ送リ。大利
ヲ占ントスル者アルヲ見ル。太閤様此事ヲ知リ。
悉ク之ヲ捕ヘテ刎頸シ。其器ヲ沒収シ。再後之ヲ
販ク者ハ刑ニ處ス。一キヲ公告ス。商人死ニ就ク
者少ナカラス。

然レモ太閤様高麗ニ事アラントスルノ前ニ於
テ生子ナキカ故ニ甥ヲ養テ。職ヲ讓テ。下ヌ。則
チ長子ニ五ヶ國。次子ニ京都近傍ニテ三ヶ國。季
子ニ二ヶ國ヲ與フ。十五ヶ國ヲ以テ。自己及執政
ノ用ニ供ス。他ノ諸國ハ侍臣。將士。及ヒ親戚ニ分

割配興シ。約シテ年々若干ノ稅ヲ納レシム。大國
ヲ領スルノ諸候ハ更ニ貸賂ヲ賜フテ之ヲ籠絡
シ。敢テ容易ニ頭ヲ擡ケサラシメ。且ク常ニ賂寶
ト生命トヲ失フコトアルヘキノ危懼ノ念ヲ抱カ
シム。

諸事方ニ整頓ス。抑モ高麗軍事ヲ起スノ大主意
ハ強猛ナル將士ヲ失スルカ。或ハ否ラサルモ外
役ニ從事セシムルハ國內ニテ事ヲ企ツル者勿
ルヘク。又幸ニ高麗ヲ押領スルコトヲ得ハ其新
収地ヲ以テ舊地ニ交換シ。日本全國總テ一年ニ

歸セシメントスルニアリ。

關白殿

三

且ク此企謀ニ背ク者勿ラシムル為外。貌ヲ誘ル
ニ世事ニ飽クヲ以テシ。自ラ職ヲ辭シ。其甥ヲシ
テ之ニ代ラシム。之ヲ關白殿ト稱ス。甫テ二十五
歳ナリ。固ヨリ虚名ナルノミ。詐欺ニ出ル所ナリ。
太閤様果ノ職ヲ退クニアラス。甥ハ其名ヲ得ル
モ實ヲ得ルニアラス。
然レモ一候モ敢テ太閤様ニ向テ。何故ニ尚國事
ニ當リ。尚職ヲ退カス。諸事ヲ擔當スルヤ。詰問
スル者ナシ。是ニ於テ断然意ヲ決シ。高麗ニ向テ

先ツ日本兵ヲ船送スル一六萬。次テ更ニ十四萬ヲ以テス。此兵高麗ニ着岸シ直チニ諸方ニ散亂ス。既ニノ全國ノ多分就中首府ボンクヤング。日本ノ午ニ屬セリ。然レモ未タ全勝ヲ得タルニアラハ何トナレハ支那人大ニ援兵ヲ送り助クレハナリ。此戦争六年ヲ經テ未タ結局ニ至リタルニアラサレモ和ヲ講シテ僅カニ一萬二千人ヲ留メ置キ他ハ皆日本ニ帰陣セリ。但シ日本ノ利ニハアラサレナリ。則チ高麗ハ永ク支那帝國ニ屬ス。一キ一日本人永久之ヲ侵掠スル一勿ル一キ

一ヲ結約シ高麗軍事始テ局ヲ結ヒタリ。抑モ大同様ハ之カ爲ニ消費スル所ノ貨賤。及人員幾許ナルヲ知ラス。兵卒ヲ失スル一十萬以上ナル一シ。而シテ其甥ナル關白殿ハ。以テ休戦前一二年来於テ薨セリ。此自裁セル故關白殿ハ稟賦銳敏ナリ。然レモ性負殘忍ナルヲ以テ。終ニ實職ニ任スル一ヲ得サリシ。平日殺戮ヲ以テ無限ノ快樂事トナシ。日々定時ニ自ラ罪人ヲ刑ス。之カ爲ニ園中ニ一地ヲ設ケ四方回ルニ垣ヲ以テス。地上砂ヲ敷キ中間

一臺ヲ設ク。則チ罪人ヲ之ニ置キ。或ハ卧シ。或ハ立リ。其命ニ從ハシム。關白殿自ラ手ヲ下シテ。或ハ四肢ヲ截リ。或ハ之ヲ標的トナシテ矢ヲ射。或ハ銃ヲ放ツ。或ハ妊婦ノ腹ヲ剖。木口ノ弟二世ノ如ク。造化ノ秘奧ヲ探ル。為ニ胎児ヲ剖キタリ。其残忍酷薄ナルト比ナシ。今數百年間。残忍人ノ所業ヲ掲載シテ。世人ヲシテ其狀ヲ追想セシメントス。

⑤往昔無理非道ナルバラリス。ハニラルリス。スノ為ニ一鍊牛ヲ鑄タリ。火ヲ以テ之ヲ燔キタルニ

在內ノ泣聲ハ牛吼ニ變セリ。アトレウス氏ノ所業同シク残酷ナリ。則チテーステスニ其子ノ肉ヲ煮テ食セシメリ。チユルリアハ驚駭セル馬ヲ驅テ殺戮セル父王セルヒウス氏ヲ蹂躪セシメタルハ。誰カ之ヲ厭忌セサランヤ。此惡業ヲ施セシ所ノ市街。今尚惡逆街ト名ヲ遺ス。アンチバテス氏ハ獅子ノ齒ヲ以テユリースセス氏ノ船ヨリ一水夫ヲ裂カシメタリ。豈ニ残酷ナラスヤ。ハンニバルノ妻ハ尤モ惡ムヘシ。坎人地ヲ堀テ一池ヲ造リ之ニ盈ルニ人血ヲ以テス。嗚乎是豈ニ快樂慰事ナラ

ンヤ。アウギユスチユス。曾テ歎シテ曰ク。寧ロ一ロテ
スノ豚ヲ養フテ子ト為スヲ勝レリト思フト。蓋
シ其父變性シタルヲ以テ。三惡児ヲ助命シタレ
ハナリ。羅馬ノ執政一ジウスホルリオハ。釋教派
ニ於テ厭忌ス一キ名アリ。多人ノ買奴ヲ刺シ殺
シ。其血ヲ池ニ貯ヘ。此人血ノ汚レタルヲムプレ
エシ。魚名ヲ美味ナリトシテ賞翫セリ。又ヒテ
リウスノ所業ハ人類ニ非サルナリ。僞敗セル屍
體ヲ頓着ナシニ踏ミ。且曰ク。敗死ノ敵兵ニハ佳
香アリト。從者ハ敗走セル敵兵ノ臭氣ニ由テ。皆

後嘔スル所ナリ。ネルハ殘忍苛酷出來損シノ極
ト云ヘシ。其母ネロノ命ニ任セテ。懷劍ヲ胸ニ中
テ。臨終ノ語ニ曰ク。妾今此出來損シナルネロヲ
妊孕シ。且産出シタルノ腹ヲ割クト。
葡萄牙王カムペーセス氏亦此黨ナリ。曾テ其兄弟
ナルスノルジスヲ殺セリ。蓋シ其妻トハ血族ノ
婚嫁ナリト。誤想シ之ニ及ヒタルナリ。而ノ之ヲ
奪テ已レノ妻トナシ。其妊孕スルニ方テ。之ヲ刺
殺セリ。是スノルジスノ初胤ヲ孕ノリトスルナ
リ。又プレキサスベス氏其子カムペーセスニ對

シテ胸ヲ開キ矢表ニ立チ直チニ心ヲ射サシ
タル片カムペーセス父ニ向テ嘲笑シテ曰ク
レキサスベスハ酩酊スルヲ以テ王ヲ咎ム余既ニ
醉ヘリ然レト豈ニ射損スルヲアラニヤト
ノーデン王アステアゲス重悪非道殆ント之ニ劣
ラス其女襲ニ波斯候カムペーセスニ配セリ方ニ
孕ノリ王一夜夢ニ其子降誕シ成育スルニ及テ
全亞細亞ヲ領スト覺テ後大ニ恐ル是ニ於テ妊
婦ヲ剖キ胎児ヲ見ントシハルバギユスニ命ス
ハルバギユス命ヲ受テ奉セス竊カニ其子ヲ女

王ミトブラダテスニ依托ス偶我家婦一死胎ヲ
産スルアリ依テ密カニ更換シテ創傷ニテ分明
ナラサラシシ之ヲアステアゲスニ捧ケリ王
以テ安心セリ然レト後ニ於テ王之ヲ悟リ大ニ
ハルバギユスヲ怒ミ則チ其児體ヲ調理シテ食
膳ニ供シ之ヲ食セシノ膳ヲ徹スルニ及テ児ノ
頭及手ヲ示シ巴ノ子ノ肉ニテ飽タルヲ悟ラシ
ノリ
カエスカリギユラ亦此血犬ニ弄セサルヲ得ス此人
營ニ他人ニ向テ非道残酷ナルノミナラス更ニ

其兄弟ヲベリウスヲ毒殺シ。三妹ニ姦淫シ。更ニ
餓饉ニ苦シマシムル爲ニ羅馬國ニ穀物ヲ輸送
スルヲ禁止ス。又徒ラニ地震雷鳴洪水及敗軍ヲ
希望ス。蓋シ已レノ在位ノ日ニ於テ非常ニ難澁
セシノ名ヲ後世ニ留メシカ爲ナリ。
カラカルラ亦此残酷ノ名ヲ蒙ル。一シ則チ其母
ノ首ヲ得シカ爲ニ羅馬領ニ進入シ。兄弟ヲ殺セ
リ。而シテ其母ハ僅カニ損傷シタレシ。後此縊子タ
ル残酷ナルカラカルラニ結婚セリ。
ポカスノ卑賤ニ出タルトラキーンヨリ受タル

耻辱ハ數百年ヲ經ルモ消滅スルコト勿ル。一シ此
人軍兵一隊ノ長ニ進ミタルハ一揆ヲ起シマウリ
チウス帝ニ背キ自ラ公坦丁内ノ一地ヲ押領シ。頗
ル無理非道ノ處置アリマウリチエス帝ヲ柱ニ縛
シ。帝妃ニ強姦シ。其子ヲ殺シ。自裁セシメサリシ。
而シテポカスハ七年ノ間公世丁王位ニ在リ。後神
罰ヲ受テ。ボシウスノ爲ニ宮内ニテ四肢及陰部ヲ
截ラレ。遺體ハ熾熱ノ銅鍋ニテ焼カレタリ。
⑤ノレトセルビスコフハツト氏亦之ニ類スル残忍所業
アリ。則チ九百十四年ニ獨乙國大餓饉アリ。貧民

必死ノ苦ナルヲ以テ市街ニ徘徊シ食ヲ索ムハ
ワト氏大ナル假屋ヲ建テ貧民ヲ悉ク此内ニ入
レ他行セシノス嚴ニ食物ヲ禁シ戸ヲ鎖シ四方
ヨリ火ヲ放テ之ヲ焼ク火焰ハ叫喚ノ聲ト共ニ
天ニ達スハット氏暴怒之ヲ叱シテ曰ク鼠輩叫フ
ヲ止メヨ汝等徒ラニ穀物ヲ貧食スルカ爲ニ生
活スルニ非サル一シトボンゲンニ接シテ列應
河畔ニ浴テ今尚鼠塔ノ遺跡アリハット氏暴君タ
ルヲ永ク後世ニ示スニ足ルナリ
凡ソ婦女ハ其性男子ヨリハ柔和ナリト虽必ラ

スシモ概論スヘカラス或ハ愛性シテ残酷ノ所
業ヲ爲ス者アリ今日本人ニ副テ併セテ之ヲ掲
載スヘシ
ロングバルデンノアルボイン王ハゲビーデン
ニ屬ス旗持ナルギユニモンドヲ戦陣ニテ追ヒ散
ラセリ而シテ勝ニ乘シテ其女ロセモンドヲ奪テ
結婚セントス女ハ父ノ讐タルヲ以テ大ニ夫ヲ
怨ム蓋シ其夫食膳ニギユニモンドノ髑髏ヲ以
テ酒ヲ飲ミタルヲ見テ愈之ヲ厭フナリロング
バルドノ一美黨アリ一ルミギルドトヲ口セ

モンドノ侍婢中ノ一人ニ懸想セリ。互ニ言ヒ合
セテ夜中某ノ時ニ於テ相密會セント約セリ。口
セモンド之ヲ偵知シ窺フ。ヘルミギルド慾情盛
ナルカ爲ニアルボインノ卧床ニ於テ菴淫セリ。
ロセモンド則チ之ヲ發覺シ大ニ怒リ終ニ迫テ
アルボイン王ヲ害セン。トテ托ス。ヘルミギルド
窮迫止ムヲ得ス。王ヲ害シ此惡業ヲ爲スノ後口
セモンドト共ニ逃亡シ二人ヲヘンネニ至レリ。
然レモ亦共ニ非業ナル結果ヲ免カルニ非ス。蓋
シヘルミギルドハロセモンドノ爲ニ毒藥ヲ

飲サレタルヲ悟リ則チ瓶中ノ殘液ヲ彼ニ吞マ
シノ共ニ毒死ヲ免カレサレハナリ。
波斯ニテハセーリユムデミンテレノ母バリサ
チスハ暴行アリ。誰カ之ヲ驚カサランヤ曾テメ
サバテスヲ生ナカラ皮ヲ剥キ十字架ニ張リ裸
膚ヲ日光ニ晒シ乾カシタリ。又一人ヲ刑臺上ニ
置ク。十日間轉回スルノ後目ヲ刺シ耳ニ熔鉛
液ヲ注キタリ。又一人ヲ斜ノニ二艘ノ小舟ノ間ニ
挟ミ頭ト脚トヲ出サシノ三週間蜂蜜ト牛乳ト
ノミヲ以テ養フノ後腐爛シテ蛆虫ヲ生スルニ

至ラシメリ。又ニコミユリシニチスハ韃韃女王ナリ。
數百年ノ憤怒ヲ漏スト云フ一シ。此人活人ヲ中
斷スルヲ以テ快樂トシ。又老人ニ強テ其子ノ肉
ヲ食セシメリ。

三チベリウス亦アウキユスチユスニ劣ラサルノ暴行ア
リ。曾テ罪人ヲ海中高峻ナル岩礁上ニ在ラシメ
倒レテ海ニ落レハ則楫舵ニテ打殺セシメリ。又
其罪人ノ眼前ニ於テ其小兒ヲ戮シタリ。又或ハ
罪人ノ陰莖ヲ緊縛シテ漏尿セサラシメ之ニ強
テ酒ヲ飲マシメ尿意窘迫シテ萬苦中徐々ニ死

ニ至ラシメタリ。

チベリウス王ノ歷代中ニ母殺シアリ。ネトト稱ス。
屢怒テ口自ラ之ヲ言フ。嗚乎余豈ニ羅馬領ノ零
落ヲ望ム者ナランヤ。大幸ナルブリアミユスヨ
トロイーンスハ灰ヲ眼中ニ撒セリ。彼終ニ此ノ
如キ昏迷ナル樂ヲ爲シ而シテ羅馬ノ周圍ニ火ヲ
放ツ。然レモキリストイネニ命シテ火災ヲ防カ
シメ。又其首ヲ截リ。或ハ野獸皮ヲ以テ包ミ犬ニ
噬マシメ。或ハ番瀝青ヲ衣ニ注キ。夜之ヲ燭ニ代

又へトリユリニ於テタセニチウスニ施コス所
非常ノ残酷ト多ク一ニ其後マクリニユス羅馬
ニ施ス所亦然リ則チ活人ノ手ニ死者ノ手ヲ縛
シ臭氣ト蛆蟲トノ爲ニ徐々ニ死ニ至ラシムル
ナリ又エレイセ無理非道人バレタレオニハ衆人
ヲ辱置スルノ如何ナリシヤ曾テ使者アリ他ヨ
リ至ル其帰ラントスルニ方テ熾熱ノ鉄柑子ニ
テ胸肉ヲ挟ミ截リ強テ之ヲ食セシノレトセリ
公坦下帝ハバシリウス亦之ニ似タルアリ曾テ
ビエルグアイレン敗兵一萬五千人ノ目ヲ盲ト爲シ

僅カニ数人ノ目ヲ存シ群盲ヲ誘ヒテ各家ニ送
リ帰ラシム是敵ニ對スルノ辱置ナリ然レハ是
ヨリカルタギーネンヲシテ更ニ極テ残酷ナル辱
置ヲ倣ハシメタリ羅馬ノ軍將アチリウスノ眼
瞼ヲ截リ太陽ニ向ハシム光線ノ刺戟ニ堪ヘス
苦痛ノ爲ニ徐々ニ死ニ就ケリ
然レハ近世ノ二例ヲ掲クゲラルドマニスヘルトダラ
ノ残酷ナルハ誰カ之ヲ避ケ嫌ハサランヤ
是ニフテニバク寺院ニ於テ基督教徒僧ヲ焙リ
殺セリ蓋シフレデレッキノーシセマルクトガラーフ

ヲ假寓セシメタルノ罪ヲ責ルナリ。又誰カノウ
エルカ。ルラノ暴行ヲ驚カサランヤ。則チ其親
友ウイルヘムスカリゲル。及其二子ヲ残酷ニ殺戮シ
タリ。是暴悪ヲ以テヘロナ。及ヒセンセテバヂユア
ニ帰センカ。為ナリ。此惡逆ナル所業ニテニ國容
易ニ我ニ帰シ。君主ナシカルハ邊疆廣大ト
ナルニ隨テ。名望ヲ好ムノ念愈残酷ニ變シタリ。
則チヒセンセニ於テ一貴女ニ懸想ス。其惡業
ヲ嫌テ之ヲ肯セス。依テ怒テサ女ヲ打擲シ。翌日
之ヲ寸斷シ。以テ其父ニ附ス。父之ヲ勿擲茶甄政

ニ報知ス。則チ其暴行ヲ領知スルヲ以テカルラ
ヲ防クノ策ヲ講シ。バヂユアヲ重圍シ。遂ニ之ヲ
殺シ併セテ其二子ヲラニス。及ウイルヘムヲ殺
シ。隨テ其領地ヲ奪ヘリ。
關白殿ノ残忍ナル自ラ手ヲ下シテ人ヲ殺スヲ
以テ歡樂トスルニ至レリ。然レモ神罰踵ヲ回ラ
サスシテ。次テ至レリ。其伯父太閤様職ヲ讓リ。五
ヶ國ヲ贈寄セシニ。此ノ如キ恩惠モ久シカラス
ノ死ヲ賜ヘリ。其原由抑モ多般ナリ。何トナレハ
關白殿ハ日本全國ヲ領知スヘキノ名アリテ。實

ナク。伯父太閤様尚之ヲ掌握スレハナリ。幼君ノ
報政及朋友類ニ之ヲ教唆シ名アリテ實ナキハ
唯嘲弄スルニ過キストシ。昏冥ニメ太閤様ノ深
慮ヲ透視スルヲ能ハス。高麗戦争ニ方テ出陣セ
シメントスルハ或ハ闘死セシムルカ或ハ多年
異域ニ在ラシメントスルナリ。殊ニ太閤様ハ自
ラ逸シテ關白殿ヲシテ高麗ヲ討タシメ。終ニ日
本軍ヲ支那ニ向ハシメ。自ラ職位ヲ占ントスル
ナリトス。然ルニ高麗ノ役意ノ如キヲ得ス。終
ニ關白殿ノ出陣ヲ要セス。然レ氏此時ヨリ伯父
ニ對シテ意恨ヲ抱キ解ケサリシ。

⑤更ニ不平ノ意ヲ増加スルヲ起レリ。太閤様ニハ
從來子ナク。父タルヲ得サルニシトセシニ老
年ニ及テ不意ニ一子ヲ擧ケリ。其誕生ヲ祝シテ
全國大ニ歡喜慶賀セリ。此事關白殿ノ意ヲ劣ス
ルヲ僅サナラス。蓋シ自ラ日本將軍ト爲ルヲ得
サルニシト推察スレハナリ。且之ヲ熟思スルニ
職位ヲ望ムモ能ハサルニシ。何トナレハ三子ア
リト虽果シテ最切ヲ鍾愛スヘケレハナリ。然ル
ニ世上太閤様ハ生子ノ父ニ非ストノ風説アリ

テ。全國曉々タリ。是ニ於テ太閤様ト關白殿トノ
離隔愈甚シク。彼此黨派ヲ分テ相眈眈スルニ至
ル。斯ノ如ク竊カニ相眈眈スレト。日本式ニ據テ太
閤様ハ其甥ナル關白殿ヲ慶賀セサルヲ得ス。是
數百年來ノ慣例ニテ。関白職ニ任スル者ニハ帝
ニ諸侯伯ノミナラス其父ナルモ存生スレハ其
郎ニ就テ慶賀スヘキナリ。此事非常ノ大典ナリ。
太閤様既ニ其令ヲ下シタルニ關白殿ハ之ヲ望
マス。既ニノ熟考シテ之ヲ請フニ至レリ。何トナ

太閤様慶賀関白殿

レハ此大典アラサレハ將軍タル一キヲ公然タ
ラサレハナリ。諸事華奢壯嚴ヲ極メリ。千個ノ獵
夫ヲシテ。盡ク山野森林ニ獵セシメ。魚數ノ渙者
ヲシテ。河海湖池ノ魚ヲ網セシム。
日本人ノ食膳ニ向フヤ脚ヲ交叉シ下ニ坐ス。各
人ニ各膳ヲ供フ。其膳ハ四角ニノ高サ一掌半貴
賤ニ應シテ精粗別アリ。或ハ白木ヲ削リ。光澤ア
ルヲ鏡ノ如キアリ。漆塗スルアリ。或ハ金彩燦爛
タルアリ。愈鄭重ナルハ膳數愈多シ。尋常饗應ニ
ハ先ツ三膳ヲ供ス。排置法アリ。將ニ徹セントス

ルニ方テ更ニ三膳ヲ供フ。渴ヲ起スノ品ヲ以テ
ス。將軍家ノ供膳ニハ精巧金彩アル木盃ヲ用フ
之ヲサカヅキト名ク以テ酒ヲ注クナリ。
關白殿ハ三千人前ノ膳ヲ準備セリ。男女差アリ
婦女ハ別室ニ坐シ。男子ト相見ル。勿ラシム。太
閤様ハ關白殿ヲ訪フニ行装總テ華美ヲ盡セリ。
其血族之ヲ案内ス。其行装壯大驚ク。一シ。總テ想
像ク及フ所ニアラス。又關白殿ノ之ヲ饗應スル
亦臆測ス。一キニアラス。饗應善美ヲ盡ス。一キカ
為ニ太閤様ニ請テ期日ヲ違延スル。一八日。此ノ

政所行装。

如クナラサレハ諸事整頓ヲ得難ク。又谷地諸候
ヲ招集スルノ餘暇勿ケレハナリ。行装尤ノ如シ。
太閤様先ツ其妃政所様ヲ送レリ。京都ヲ距ル
三里。伏水ニ住スル所ナリ。衆車ニテ立派ナリ。前
驅ハ貴人夥シ。行列一時許ナリ。之ヲ警固スル步
卒夥シ。其諸具日光ニ映射ス。總テ貴品ナリ。貴人
ノ後ニ長キ大ナル櫃三挺ヲ荷フ。長持。漆塗精巧
ナリ。此内政所様ノ調度ヲ納ルナリ。次テ他ノ櫃
十五挺アリ。宮女ノ衣服ヲ納ル所ナリ。次テ騎馬
十六ナリ。装具金銀珠玉ヲ鏤シ。人目ヲ眩ス。以テ

宮女乘馬

如キ貴貨散亂スルノ外將軍及妃ヨリ舊慣ニ依
リ關白殿ニ寄贈スル金銀貨寶裁許ナルヲ知ラ
ス第五隊ハ貴位ノ宮女ナリ盛粧ノ牡馬ニ跨ル
各侍女三十人ヲ從フ次ヲ衆物八挺共ニ貴價精
巧ナリ三十二人ニテ荷フ是最貴宮女ノ衆ル所
ナリ之ニ次ヲ政所様ナリ最モ貴價ナル衆物ニ
テ人肩ニテ荷フ巧ニ數千ノ格子ヲ雕刻ス其工
費裁許巨額ナルヲ知ラス政所様ハ他ヨリハ伺
フヲ得サルモ内ヨリハ格子ヲ透シテ他ヲ自在
ニ見ルヲ得ヘシ同裝ノ輿夫多衆隨行ス日本貴

宮女衆物ナリ

宮女分車ニ乘
アリ

妃ノ行裝寶ニ驚クヘシ後從ハ百五十人ノ貴女
ニテ終ル共ニ盛粧ノ馬ニ跨ル皆顔ニ精絹ヲ被
フ各從者アリ一馬下ニテ二馬ノ口綱ヲ引ク
最後隊ハ宮女ナリ二輪車ニ乘ル軸ノ尖端ニ銀
板ヲ附ス木挺ノ縁ニハ光輝アル銅ヲ裝スリユン
ズ車ノ輪力軸ヨリ抜ケサル様ニハ磨ケリカラ
ツト車ノ箱ハ階圓ニノ前ニ突出ス後ニニ柱ヲ
建ツ其上端ニ日覆ヲ張ル横木ニテ之ヲ支ノ日
覆ハ輪狀ニ張リ中點ニ集合シ結束ス輪周ニ帛
ヲ垂ル一三尺毛氈ハ轡ニ車内ノミナラス更ニ

外側ニ懸ル故ニ輪ト両側トノ間ニ空ル此毛氈
上ニ宮女ハ美粧ニテ坐ス一男アリ兩挺間ニ在
テ車ヲ押スナリ此ノ如キ行装ニテ政所様ハ聚
樂第ニ赴ケリ而シテ白殿ニ進呈スルニ巨額ノ
貨幣及他ノ貴價品ヲ以テス其華美盛大ナルヲ
人ヲ驚カス足ル關白殿ノ納ル所極テ殷富ナリ
翌日太閤様ハ其邸ヲ出ツテ前時ニ於テ貴人多
ク嚮導シ聚樂ニ赴ケリ太閤様ノ邸ト聚樂第ト
ノ間ニ兩側ニ番兵ヲ配置ス相隔タルトニ歩毎
ニス番兵ハ手ニ抜刀ヲ持テ立ツ是美濃候即チ

太閤行装

七將軍信長ノ孫ノ人教ナリトス此番卒ノ間ヲ
通過スルハ先ツ精兵三百共ニ盛粧ナリ各人ノ
具足ヲ前行セシム從者頗ル多シ第二隊ハ諸候
ナリ或ハ弓ヲ執ルアリ或ハ劍ヲ執ルアリ或ハ
懷劍ヲ執ルアリ又他ノ武器ヲ執ルアリ皆太閤
様ノ所用品ナリ

第二隊諸候

第三隊太閤衆
牛車

之ニ次テ太閤様ノ坐スル車ナリ其構造製作ノ
精巧緻密ナルヲ名狀ス可ラス金彩粧飾燦然ク
リ輪圍ニアルヘルゲ車輪ノ外圍ノ木蓋シ外圍
ヘルゲ車輪ト四ヘルゲ車輪ト一分ナリ譬ハ廻
手

途^ニ関白殿出迎^モ大

輪内ノ輻及縁皆純銀ヲ用フ。ニ足ノ黑色大牛ニ
架ス角ヲ飾リ。紫色ノ帛ヲ被フシノ珠玉ヲ粧ス。
太閤様ノ牛ヲ用フルハ馬ヲ缺クニアラス。則チ
尊貴ノ標準ナリ。是舊式ニテ内裡ニ参朝スルニ
牛車ヲ用フルナリ。致百年来ノ習慣ナリ。此車ニ
架スルノ牛ハ屢試ムル所ナリ。又太閤様ノ車ノ
周回ニハ貴人ノ從者無致ナリ。
レ氏兩公ハ其間隔尚遠キカ故ニ互ニ無言ナリ。
關白殿ハタシギ候ヲ使者トシテ太閤様ニ臨駕

ノ謝辭ヲ述ヘシム。太閤様之ニ答テ曰ハシム。關
白殿御成千秋萬歳ト蓋シ衆人ノ為ニ萬歳ヲ祝
スルトノ意ナリ。太閤様更ニ車中ヨリ大聲ヲ放
テ之ニ告テ曰クサキヘイカテイイカレイ其意
ハ前行サルヘシ余隨行スヘシトナリ。此應接ノ
後ニ兩側ニ警固スルノ諸人再ヒ馬ニ跨リ。関白
殿ニ隨テ聚樂ニ赴ケリ。程ナク太閤様モ進行シ。
全隊通過スル時日既ニ正午ヲ過タリ。全行装ノ
總宰ハ京都ノ市正ゲネヨイシナリ。太閤様ノ聚
樂ニ至ルヤ橋ヲ經テ門内ニ入ル。衆諸候皆奉迎

函連三日ナリ。

セリ。關白殿ニ進物ヲ呈ス。其物品ノ價格臆測ス
可ラス。而ノ伯父ヲシテ華美ヲ恣ニセシメサル
為ニ之ニ報フルニ貴價ナル饗應ヲ以テス。
善美ノ饗應連三日ナリ。凡ソ耳目口鼻ヲ慰ムル
所以ノ者盡サレ所ナシ。食膳ニハ凡ソ地上ニ
生スル者。河海ニ産スル者。氣中ニ飛フ者。山林ニ
住スル者。備ヘサル所ナシ。價格ヲ論セス。工巧ヲ
惜マス。各室歌曲ヲ奏シ。糸竹管絃争ヒ起ル。諸技
藝總テ世上ノ謬誤ヲ傳フルニ異ナリ。戲場ノ舞
臺ハ漆塗ノ板ヲ張ル。柱ハ彫刻精緻ニシテ。金彩ヲ

武藝ヲ演ス。

粧ス。紫幕ヲ張リ。毛氈ヲ敷ク。每時異觀ヲ呈ス。
他地ニ於テハ。武藝ヲ演ス。則チ廣濶地ノ中央ニ
太キ四角ナル柱ヲ立テ。更ニ四方ヨリ之ヲ支柱
ス。場ノ周囲ハ厚キ板ニテ。劃シ觀者ノ此内ヨリ
出ルヲ制ス。尋常吏人ハ護堀内ニアリ。貴人ハ棧
敷ニ上リ觀ルヘシ。縁ニ裂アル小旗。桐三葉ノ金
紋アリ。ヲ長竿端ニ懸テ之ヲ斜ニス。二人宛ニテ
優劣ヲ競フ。木造ノ人頭ヲ四角柱ノ尖端ニ置キ。
之ヲ刺スナリ。各人慣手ノ武器ヲ用フ。或ハ長鎗
ヲ以テスルアリ。或ハ劍ヲ以テスルアリ。總テ其

大同戒心アリ。

銳夫ノ頭ニ入ルヲ勝トス。或ハ此ノ如キ木頭ヲ
多ク排列シ。兩人宛ニテ手銃。或ハ弓矢ヲ以テ射
ルヲ競フアリ。勝ツ者ニハ賞アリ。
聚樂ニ於テ此ノ如キ饗應配膳アル連三日ナリ。
然レモ大同様尚戒心ナキ能ハス。蓋シ食膳中。或
ハ毒ヲ和シ。歡樂中ニ於テ竊カニ殺害スル。ア
ル一キヲ慮レハナリ。預メ此詐欺ヲ防カシカ為
ニ。腹心ノ臣僚ヲ聚樂ノ四方ニ排置シ。警察セシ
ム。而シテ關白殿ニ對シテハ。親愛ノ状態切ノ容ヲ
示ス。絶テ疑フ一キ形迹ナシ。關白殿多國ヲ領シ

演劇。

將軍職ヲ緼カントスルノ念アルヲ以テ。大ニ尊
敬ノ禮ヲ表スルナリ。若シ關白殿此ノ如キ親愛
者ニ向テ。異心ヲ抱クニ非サルヨリハ。絶テ不慮
ノ事アラサル一キナリ。
三。此ノ如キ懇親中ニ於テモ。近侍中。或ハ關白殿ノ
意ヲ知ラスノ。伯父大同様ニ害心ヲ挾ム者ナキ
ニ非サルナリ。故ニ番兵ヲ四方ニ置キ。不慮ニ備
フ。饗應ノ第二夜ニ方テ。舞躍ヲ觀ニ供セシカ為
ニ。公座ヲ他所ニ轉移セン。ヲ請フ。此藝人中。兵
力ヲ以テセスシテ。京都ヲ奪領セントスルノ意

大同飛彈殿ノ
邸ニ臨ム

ヲ抱ク者多シ。蓋シ騷擾ニ乘シテ公ヲ弑セント
スルナリ。然レ氏豫メ之ヲ防クヲ以テ故障ナク
尋常祝聲ニテ終ルヲ得タリ。
聚樂ニテハ血ヲ見ルニ及ハスシテ饗應終リ太
岡様ハ是ヨリ恚ク從者ヲ伴テ一大候飛彈殿ノ
邸ニ赴ケリ。此候亦饗應スルニ巨額ヲ惜マス。金
屑ヲ食物ニ撒布スルニ至レリ。其膳部ノ鄭重結
構ナル。或許ノ巨額ヲ費スヤヲ知ラス。抑モ金屑
ノミノ價モ千四百レックスダールデルトナリト云フ
日本諸候ノ習慣ニテ酒一献毎ニ多金費ヤス。況

饗膳九献

ニヤ將軍ヲ饗應スルニハ九献ナリ。而ノ一献毎
ニ新下物ヲ呈スルナリ。飛彈殿ヨリ大同様ニ盃
ヲ捧ク。其第一献ニハ四千五百ジユカール一シユ
カールト
ハ金一円ト二十三匁八厘五毛。故ニ四千五百ジ
ユカールトハ大畧五千円ナリ。故ニ四千五百ジ
毎献次第ニ大ニノ九回ニ及フナリ。蓋シ永久恩
惠ヲ保持センカ為ニ捧クル所ノ總額意表ニ出
ワ。大同様此邸ニテ一日ヲ消セリ。蓋シ其鄭重ナ
ル一曾テ九ヶ國ノ太守ナルギトクソノ饗應ニ
譲ラス。
既ニノ大同様終ニ伏水ニ歸レリ。是宮殿アル所

太閤伏水ニ歸ル

ナリ。後久シカラスノ其甥關白殿ヲ請招シ。饗應
シ。某ノ地ニ於テ。某ノ時ニ於テ。祝宴ヲ開キ。舞躍
競馬ヲ觀ニ供セントス。但シ太閤様恨ヲ抱テ注
目セサルニ非サルナリ。侍臣中ニゲホニオアリ
亡將軍信長ノ弟ノ子ナリ。太閤様之ヲ傍ニ招キ
其忠勤ヲ謝シ。更ニ落涙セラ曰ク。卿ノ日本遠隔
ノ地ニアル。實ニ憐ムヘシ。卿ノ伯父信長ハ余ヲ
卑賤ヨリ拔テ。大職ニ當ラシム。余ハ今日アルハ
全ク卿ノ伯父ノ厚意ニ出ル所ナリ。遠カラスノ
余卿ヲ一大候ニ進メントス。今聊カ微意ヲ表ス

關白太閤ヲ
饗應セントス

ルニ。米六千俵ヲ以テスト。
然ルニ關白殿ハ伏水ニ在住ノ太閤様ヲ請招シ。
立派ニ饗應セント欲シ。則チ伏水ニ於テ。貴價ナ
ル宮殿ヲ建築セリ。而シテ饗應善美ヲ盡シ。太閤様
ヲ請招セシニ。公ハ其請ニ應セス。徒ラニ時日ヲ
消費シ。企謀スル所アリ。遂延久日ニ亘ルヲ以テ。
關白殿ハ大ニ不満ノ意ヲ懷テ。聚樂第ニ歸レリ。
是ヨリ宿怨愈固結シテ。解散セス。日々角力擊劍。
競馬。射的等ノ諸武技ヲ演習シ。竊カニ隱謀ヲ秘
匿シ。且微服シテ。聚樂第ノ廣濶ナル地ニ於テ。罪

聚樂ニ在テ不満
ヲ抱ク

諸候ニ結約ス

人ヲ濫刑殺戮シテ以テ歡樂トセリ。然レ臣尚竊
カニ日本大諸候ヨリ進物ヲ貯蓄ス。
近幸ノ臣ニスキラビンゴアリ。此人百方諸候ニ
説諭シ他日緩急事アルニ方テハ關白殿ノ命ニ
應シテ應分ノ兵ヲ徵集スヘキヲ結約誓書シ調
印セシムスキラビンゴ先ツ之ヲ九州王アキロ
マニ謀ルアキロマル之ヲ擯斥シテ曰ク何ソ
必ラスシモ誓約スルヲ要センヤ。或ハ誓約スル
者アルモ信實結合スルヲ能ハサルヘシ。故ニ辭
スト。然レ臣他ノ約ヲ結ノ者ハ誓書ニ記名調印

シテ之ヲスキラビンゴニ呈ス。一老侍女此書ヲ
預リ之ヲ關白殿ノ第内ニ秘藏ス。

關白ニ詰問ス

既ニノアキロマルスキラビンゴノ行事ヲ竊カ
ニ太閤様ニ告ク。太閤様明ラカニ其事情ヲ偵知
シ為ニ苦慮深謀スル所アリテ關白殿ヲ招キ理
由ヲ詰問セント欲セシニ關白殿ハ大ニ感冒ニ
罹ルカ故ニ急速命ニ應シ難キヲ以テ之ヲ辭ス。
太閤様満足セス乃チ信任スル所ノ五諸候ニ謀
リ關白殿ヲシテ五ヶ條ノ問題ニ確答スル所ア
ラシメントセリ。曰ク。感冒ニ罹ル者豈ニ能ク

關白答詞

日々舞躍競馬擊劍等ヲ演習スルヲ得ニヤ是
健康時ニアラサレハ能ハサル所ナリ以テ如何
トス。貴重ノ身ヲ以テ屢罪人ヲ午及スルハ抑
モ何ノ心ソヤ。多致ノ兵卒ヲ募集シ以テ非常
ヲ警ムトハ何ノ故ソヤ。護身ノ衛兵數千人ニ
及フハ何ノ故ソヤ。日本全國諸候ニ結約誓書
セシムル何ノ意ソヤ。關白殿自ラ明亮ニ之ニ
答ル所アルヘキナリト。

太閤様ハ伶例ナル一老侍女ヲ關白殿ノ第ニ送
リ。問題ニ答フル所アルヲ聞カシム。關白殿侍女

ニ向テ答テ曰ク。今日劇甚ナル感冒ニ罹レリ。而
ノ乘馬擊劍ヲ演スルハ病苦ヲ慰ムルニ過キス。
人ヲ刑戮スルハ敢テ故ナキニアラヌ果ノ憂
スヘキノ罪ヲ加フルノミ。兵卒及侍臣ヲ增多
スルハ共ニ將軍家ヲ警固シ安穩ナラシメント
スルニ過キス。斯ノ如クナラサレハ太閤様ノ老
衰ニ傾キ威權ノ減退スルヲ時トシ或ハ騷動亂
暴ヲ謀ル者アルヲ防クニ足ラサレハナリ。諸
候ニ誓約スルハ唯各人ヲシテ同心協力ナラシ
メントスルニ過キスト。侍女曰ク。關白殿自ラ

此辨解ヲ手記シテ他意ナキヲ誓約セハ太閤様
必ラス醒悟スル所アル一キナリト
是ニ於テ関白殿答書ヲ呈セリ太閤様之ヲ通讀
シ喚テ曰ク我カ甥果ノ罪ナシ世人何ソ人ヲ欺
クノ甚タシキヤ余ト関白殿トノ間ヲ分裂セシ
カ為ニ何人カ無益ノ口舌ヲ弄スルヤ諸候ノ虚
説ニ惑フ復タ歎ス一キナリト此ノ如ク満足ノ
意ヲ詳カニ書ニ記シテ関白殿ニ送レリ蓋シ是
レ幼主ヲ懈怠セシメ竊カニ核會ヲ族ツノ秘策
ニ出ル所ナリ抑モ関白殿招集スル所ノ兵ヲ解

散退去セシムルニ非サレハ其意ヲ達スルニ難
ケレハナリ依テ遽カニ全國ニ令シテ兵ヲ伏水
ニ招集シ関白殿ヲシテ絶テ之ヲ悟ル一勿ラシ
ム各地ノ諸候ハ関白殿ノ第二来リ候シ太閤
様トノ間ニ起リタル紛議解散セルヲ慶賀スル
ヲ以テ関白殿ハ大ニ安心寧意セリ且太閤様ハ
初生児ヲ関白殿ニ委託シ養テ嗣ト為サシメ
ト約スルヲ以テ伏水ニ雜沓スル一アルモ敢テ
少シモ注意セサリシ
諸事此ノ如ク穏静ニ處置スルノ後招募スルノ

諸候。各々兵ヲ引テ大坂ヨリ伏水ニ着セリ。宿望
ヲ達スヘキノ機會方ニ近キニアリ。乃チ太閤様
ヨリ關白殿ヲ招集セリ。蓋シ演劇ヲ用場スルヲ
名トス。而シテ意中謂ラク事若シ成ラサルハ。怨
恨固結シ。全國再ヒ震動シ。必ラズ後害ヲ遺スナ
ルヘシ。宜シク聚樂第。及他ノ總テ關白殿ノ諸邸
宅ニ火ヲ放ケ。灰燼トナシ。關白殿ノ遺跡ヲ見テ。
慷慨悲憤ノ念ヲ起ス者勿ラシメント決意セリ。
關白殿ハ固ヨリ太閤様ノ隱謀アルヲ悟ラサル
カ故ニサシモ危懼スルノナク。厚意ヲ謝スル為

關白殿
高野山ニ赴ク

ニ。少人数ヲ伴テ伏水ニ至レリ。通路番兵ヲ配置
スルアリ。是必ラスシモ遁亡ヲ防ク為ニアラス。
不虞乱妨ヲ警ムル為ニテ。平時ニモ此ノ如クス
ル所ナレハ。敢テ怪シムヘキナシ。日午伏水ニ達
セリ。其第前ヲ通過スルモ。之ニ入ラサラシメ。尋
常人家ニ於テ休息シテ。報ヲ待タシム。既ニノ日
暮ニ及テ。太閤様ヨリ卒然命アリ。高野寺ニ赴ク
ヘシト。是紀州ニ在ル一高山ニ築ク所ノ一寺
院ナリ。抑モ高野ハ諸候ノ罪科アル者ノ住所ナ
リ。嚴寒ナル島ニテ。ハチンシナト名クル地ニア

本文ハ丈島ト
誤認スルニ似
タリ

リ。江戸ヲ距ル。海路東方百四十里ニアリ。流謫ノ地ナリ。此夜關白殿上途セリ。太閤様ヨリノ護兵之ヲ警固ス。以テ不虞ヲ戒ムルナリ。

太閤様ノ近侍ノ士ニサカンド。アリ。京都ニアル。聖王妃ノ子ナリ。年甫テ十八歳。關白殿ノ放逐ヒラレテ。高野ニ赴クヲ聞キ。一馬ヲ馳テ之ヲ逐ク。警固ノ人之ヲ文エテ。諭シテ曰ク。速カニ歸去シテ。太閤様ニ奉事セハ。則チ或ハ後日ノ災ヲ免カル。一シト。則チ答テ曰ク。此君ハ曾テ余カ事ノ所ニテ。固ヨリ真ニ服事スル所ナリ。今方ニ之

ヲ証スルノ時ナリ。抑モ不幸凋零ノ時ニ於テ。平日交誼ノ真假ヲ辨ス。一キナリ。其幸福アルノ日ニ於テハ。衆人皆之ニ追從スルモ。不幸ニ凋落スルノ時ニ方テハ。之ヲ顧ミル者ナシ。余ヤ親友ノ名ニ背クヲ欲セス。止ムヲ得サレハ。唯一死アリ。以テ平日ニ報センノ。則チ然リ。則チ然リト。一鞭馬ヲ躍ラセテ。關白殿ヲ逐ヒ。夜中竊カニ關白殿ニ謁ス。關白殿其懇馬ヲ感シ。之ヲ救ハントスルモ。為ス所ヲ知ラス。竊カニ之ヲ伴フ。然レモ。監察吏之ヲ太閤様ニ報知ス。太閤様之ヲ知レ。氏

其父ノ曾テ大功アリシト。今其子危難ヲ顧ミ、志ヲ憂セサルヲ賞シテ、敢テ其罪ヲ問ハス。關白殿ハ徹夜進行シテ、ヒスサヨリ出立シ。玉水村ニ達ス。此地ニテ後頭ノ髮及髭ヲ剃除シ。日本式ニ據テ佛門ニ入。憂稱シテ關白殿ヲ廢シ。道意ト改ム。蓋シ世事ニ関涉セサルノ意ヲ表スルナリ。終ニ高野寺ニ達セリ。此寺ノ大和尚興山出テ之ヲ迎ヘ。衆僧ト共ニ誘ヒ去レリ。抑モ途上各種ノ侍臣ニ逢フ。皆乞弓。或ハ諸商人ノ装ヲ擬ス。蓋シ太閤様ノ警固人ノ目ヲ惑サントスルナリ。然

レ正憂爵ノ状アリテ。流涕シ。言語蹇澁ニシテ。流暢ナラス。關白殿伴フ所十人ノミ共ニ寺院ニ入ル。其接遇極テ粗惡ナリ。歎シテ曰ク。歎日前マテハ余候タリ。一身ヲ以テ衆庶ニ君臨ス。今ヤ凋落極レリ。許多ノ所領ニ代ルニ僅カニ一身ヲ存スルノミ。轉化變遷復タ甚タシキ哉。余曾テ最高所ニ登レリ。今最低所ニ墮落セシナリト。此ノ如キ歎息モ寂莫ナル高野寺ニ於テ之ヲ度シ。君臣相顧ミテ相慰ムルノミ。總テ太閤様ノ護兵ノ警衛スル所タリ。又關白殿ハ絶テ他人ニ應

僧興山。

接スルヲ得ス又之ト文書往復スルヲ得ス大和
尚興山謂ラク此罪障消滅ヲ謀ルハ佛力ノ呵護
ヲ願フノ外他策ナシト則チ為ニ誓願祈念シ關
白殿ヲシテ往時ノ采卒ヲ得セシムルハ佛力ニ
頼ルニ非サレハ能ハス豈ニ人力ノ達スル所ナ
ラニヤト此處置太閤様ノ耳ニ達スルヲ以テ愈
關白殿ヲ憂刑ニルノ意ヲ決シ千九百九十五年
文祿四年八月十五日遂ニ残酷ナル終焉ヲ執ラモリ
五關白殿詩憂歎息自裁スルニ躊躇セリ侍臣等之
ヲ注視スルニ容貌轉變苦惱煩悶氣息或ハ短ク

或ハ長ク言語判然ナラス唯憂慮スルノミニテ
決意シ能ハサルニ似タリ是ニ於テ侍臣等其意
ヲ鼓舞挑撥シテ曰ク太閤様ハ妾ニ天倫ヲ破リ
伯父タルヲ忘レントスルモ能ハサル所ナリ且
養育スルニ屢其當ヲ失シ少年ナルニ托ヒテ登
位ヲ截ラントスルハ抑モ狂スルニ非スシテ何
ソヤ今此ノ如キ顛覆ニ至ルモ決シテ失望シ歎
息スヘキニアラス災難ニ遇フモ危懼セス壓制
ノ惡業ヲ蒙ムルモ精神ヲ勞セサルヲ以テ君子
トス太閤様亦薨スルノ期アルヘシ其時ニ及ハ

關白殿自裁

ハ必ス悔悟スルヲアラシム。全國ノ人今皆畏懼シテ
テ。沉默スルモ。一回政綱ヲ失スルニ至ラハ。皆翻
然トノ太同様。何故ニ關白殿ノ位ヲ奪ヒシヤ。何
故ニ之ヲ廢セシヤ。何故ニ之ヲ殺セシヤ。ヲ議ス
一キナリト。

關白殿ハ此諭言ニ因テ奮然死ヲ決セリ。太同様
ヨリ送ル所ノ使者則チ關白殿。及其從者ニ死ヲ
賜フ。此命一下スレハ。復タ何奈トモ為ス一キナ
シ。皆其準備ヲ為セリ。一侍臣先ツ自裁ス。年甫テ
十八歳ナリ。但シ此少年煩惱シテ。遽カニ死セサ

ルヲ以テ。關白殿之ヲ介錯シ。其頸ヲ刎シ。其首ヲ
傍ノ高所ニ置ク。他ノ二臣ニ於テモ亦此ノ如ク
ス。既ニノ今方ニボレシウスキウスキルナリノ
番ニ及ヘリ。其祖母ハ往日關白殿第内ニ赴キ。風
説ノ根據ヲ探偵セシムル為ニ太同様ノ使女ト
ナリタルヲアリ。其復命スル所。詐欺ニ直ルヲ以
テ。太同様其孫ナルビウスキルナリ。テ。誅スルナ
リ。他ハ皆自裁ヲ許シタルニ此人ノミヲ刑ニ處
セントセリ。然レトビウスキルナリ。テ。命ヲ奉
セス。命ヲ傳フル人ヲ辱カシメテ曰ク。余太同様

ノ命ニ應シテ刑ニ就クヲ願ハス生ヲ惜テ辱ヲ蒙ラルヨリハ寧ロ關白殿ニ侍シテ死センノミト既ニノ自テ割腹セシニ疼痛劇甚ナルカ為ニ昏妄セリ關白殿速カニ終焉セシメシノカ為ニ其頸ヲ刎シ次テ自テ刀ヲ腹ニ貫ケタリ更ニ一侍臣アリ三十四歳ナリ此ノ如キ血浴ヲ見テ敢テ驚カス從容トノ關白殿ノ刀ヲ執リ之ヲ已レノ腹ニ刺ス此刑事頗ル多時ヲ費ヤセリ後衆僧來リ會シ悉ク遺體ヲ焼ケリ此時尚未夕全死ニ至ラサリシ者アリタリト云フ

侍臣文ヲ刑ス

太閤様ハ日々關白殿ニ附屬スル諸輩ヲ探索シテ刑ニ處スルトニノ熱心シ先ツ其侍臣三人ニ及ヘリ共ニ寺院ニ遁亡スル所ナリ一ハ關白殿ニ阿諛追從シテ終ニ不良ヲ企謀セシ者ナリ次ニスキラビシゴナリ是諸候ヲ鼓舞シ誓約書ヲ造リ連判記名セシメシ者ナリ此書流傳シテ終ニ太閤様ノ手ニ歸ヒリ固ヨリ異刑ニ處スヘキ所ナリ而シテ衆人ノ尤モ愛惜スルハ木村ナリ是戰爭時及亂後平和時ニ於テ大ニ功勞アリ人ナリ然レモ關白殿ノ親交タルヲ以テ自裁ヲ

免カレサル所ナリ。

水村ノ子アリ。此特西國ニアリ。後ニ及テ父ノ死
ヲ知ル。父伏見ヨリ一書ヲ寄テ其意氣ヲ鼓舞セ
シノリ。曰ク勇者死ヲ見ル。下歸ス。カ如シ。況ヤ罪
ナキニ於テオヤ。唯一事ノ關心トスルハ。今ヨリ
汝ト遙カニ相隔タルナリ。故ニ汝余カ死ヲ聞カ
ハ。速カニ来リ從フ。一シト是ニ於テ罪状言渡シ
テ待テ。則テ貯畜ノ賤賈ヲ出シ。身ニ帶テ。既ニノ
ニ使アリ。伏水ヨリ至ル。一ハ其父ノ死ヲ報シ。一
ハ死ヲ賜フ。蓋シ日本ノ刑法ニ父罪アレハ其子

何状ナルニ論ナク。累連ヲ免カレサルナリ。

少年則太閤様ニ謝シ。且告ケシ。テ曰ク。父ノ刑
ニ憂セラレ。残酷怨ム。一シ。此ノ如キ刑ヲ受ク。一
キノ理ナシ。余豈ニ此虐政ノ下ニ保生セシヤト。
言ヒ。終テ京都ニ赴キ。自家持佛堂ニ入テ。自裁セ
リ。後水村ノ妻モ太閤様ノ命ニテ。佛寺ニ於テ刎
頭セラレタリ。
既ニノ漸次ニ關白殿。附属嬪妾。侍女。兒輩。及血族
ニ至ルマテ。皆之ヲ死刑ニ憂セリ。京都ニテ捕ル
ル所宮女三十一人。皆是或ハ公卿ノ女貴族ノ如

妻妾血族宮女
三十一人ヲ刑ス

畜生塚

或ハ關白殿ノ家族ナリ。共ニ聚樂ヨリ車ニ載セ
テ刑場ニ送ラル。兇輩モ亦免カル者ナシ。或ハ乳
母ノ負抱スルアリ。或ハ生母ノ懷クアリ。跽泣啼
哭シテ衆人觀者ノ中ヲ通過セリ。其車刑場ニ近
クニ及テ。跽哭止ミ。静黙ス。獄吏公妃ニ刎頭スヘ
キヲ告ク。妃念佛シテ地ニ伏ス。之ヲ刑スルノ狀
ハ先ツ小兒ヨリス。一々其頭ヲ刎シ。後婦人ヲ車
ヨリ却シ之ヲ殺スノ狀相同シ。其屍ヲ一穴ニ埋
ム。後太同様其上ニ一堂ヲ設ケ之ヲ畜生塚ト名
ク。獸類ヲ埋葬スルノ堂トノ意ナリ。

異教ヲ排ス

其後スキラビンゴノ妻子ヲ刑ス。迎車ヲ其邸ニ
送ル。其妻ハ耻辱ヲ蒙ムラサルカ為ニ先ツ其三
兒及一女ヲ手刃シ。頭ヲ刎シ。終テ自ラ手裁シテ
此諸屍上ニ伏セリ。
聚樂第ヲ没収シ。他ノ三百ノ宮殿モ之ヲ崩潰シ。
伏水ニ送レリ。
太同様ハ千五百八十七年。既ニ日本ニアル羅馬
教ヲ排斥セリ。是イエソイトコルネリスハサル
ト氏ヲ信スルニ由テ偶然ノ事ヨリ意ヲ達セシ
ナリ。船將ドミンゴモンテロ氏。葡萄牙ヨリ來テ

平戸港ニ着セリ。其船極テ美麗ナリ。是本年六月
ノ一ナリ之ヲ觀ル者其構造ノ精巧ナルト費用
ノ巨額ナルヘキヲ察シテ。驚嘆セサルナシ。此評
判嘖々トノ終ニ太閤様ノ聽ニ達セリ。公ハ好奇
ノ念ヨリ之ヲ一見セント欲シハサルトヲシテ
其意ヲモシテ。口氏ニ通達セシム。公此時博多ニ
在リ。則チ此船ヲ速カニ博多ニ廻漕セシメント
セリ。モンテ。口氏答テ曰ク。平戸ヨリ博多ニ至ル
ノ間。暗礁淺洲多キカ故ニ之ヲ廻漕ニ能ハサル
ヲ以テ。辭ス。公復夕之ヲ見ルノ意ヲ止ム。然レモ

大ニ其命ヲ奉セサルヲ恨ミ。翌日書ヲ寄テ曰ク。
異教徒ハ二十日以内ニ於テ。日本地方ヲ退去ス
ヘシ。抑モ數百年來日本ニ於テ。尊奉スルノ教法
ト相容レサレハナリ。蓋シ公ハ早ク既ニ此令ヲ
下サント欲スル所ナリシモ。西國ノ諸候之ヲ信
スル者多キヲ以テ。猶豫シタルニ。今日ニ及テハ
諸候皆膝下ニ屬スル所トナルヲ以テ。断然是ニ
及ヒシナリ。
千五百九十六年。太閤様殘酷ニ事ヲ憂シ。長崎奉
慶長元年。命シテ。異教徒ヲ磔刑ニシ。十字架
行治部之丞ニ命シテ。異教徒ヲ磔刑ニシ。十字架

異教徒ヲ刑ス

上ニ縛シ。鎗ニテ刺殺シ。其首ヲ刎ス。佛朗西人五
名。イェソイラン三名ナリ。ハサルト氏説ク所ニ
據ル。
佛人トハ。コンサルヒユスガルシア。一印土人ビ
リプスデラスカサス。一墨西可人。ペーデルバプ
チスタアサレムミカールマルラーンデアギユ
イルレ。三佛人。
西班牙人トハ。パウリユスミキヨヤンネスゴト
ヤコブスキサイ。三人。
以上八名ナリ。

太閤病ニ罹ル

天

太閤様悪逆無道今ノ為ニ大ニ心痛シ。千五百九十
慶長三年
八年七月ノ季ニ偶赤痢ニ罹レリ。初起ニハ膽汁
様粘液ニ少許ノ血ヲ混スルノミナリシニ。後ニ
便中ニ腸ノ剥屑ヲ現シ。次テ腸ノ肉負腐爛シ。敗
臭アリ。且ツ劇痛ヲ復ス。八月五日必死ノ徴候ヲ
現セリ。此諸徴アリテ更ニ冷汗淋漓タリ。太閤様
自ラ其不起ヲ悟ルト。尚異容ヲ示サス。政務ニ
關涉スルヲ絶テ健全時ニ異ナル所ナシ。尤モ注
意スル所ハ。秀頼ヲシテ職ヲ緼カシメントスル
ニアリ。熟考シテハケ國ノ太守ニシテ。全國人望ノ

本岡大御所遺言

歸スル大御所ニ依頼スルノ外。他策ナキヲ惜リ。此人ニ非サルヨリハ。誰カ敢テ能ク幼子秀頼ヲ補佐シテ。全國ヲ鎮撫スルヲ得ンヤト。此時大御所ハ伏水ニ在リ。則チ竊カニ之ヲ招キ。述ル所左ノ如シ。

余方ニ死ニ瀕セリ。其果シ之ヲ免カル可ラサルヲ知ル。凡萬人皆然レハナリ。唯大ニ心痛スルハ。豚兒僅カニ六歳。未タ以テ直チニ日本將軍ト為ス。一キニアラス。後見人アリテ之ヲ補佐シ。教育シ。十五歳ニ至ルニ及テ。國事ニ當ラシム。一キナ

リ。今之ニ議スルハ。卿ニ非サレハ能ハス。其異常ノ銳敏ナルヲ以テ。此大事ヲ依頼スルナリ。則チ日本全國ト。兒トヲ併テ。卿ノ手ニ属セリ。兒ノ十五歳ニ及フヲ俟フ。一ニ從來ノ深交ヲ以テ。余卿ヲ決シテ疑ハス。然レモ更ニ今余カ兒ヲシテ。卿ノ二歳女ニ配シ。婚儀ヲ結ハントス。此ノ如クスレハ。余カ後胤蕃殖シ。二家ノ子孫永久保存ス。一キナリト。

毛 本岡様ノ聲音不明亮トナリ。休止セサルヲ得ス。是ニ於テ大御所之ニ答テ曰ク。信長弑サル中ニ

余ハ三河ノ守タリ。後君ノ大位ニ登ルニ方テ。余
ニ三河ノ外更ニ七國ヲ增加シ賜フ。此ハ州之ヲ
關東ト称ス。是全ク君ノ恩惠ニ出ル所ナリ。其他
恩遇優渥ナリ。余カ不敏ヲ以テ君ノ愛顧ヲ賜フ。
常ニ自ラ危懼スル所ナリ。余カ力豈之ニ堪ヘン
ヤ。宜シク君若クハ君ノ族ニ返呈スヘキナリ。無
能ニシテ此大賚ヲ受ケ。之ヲ報謝スルノ道ヲ知ラ
ズ。唯一命ヲ棄テ太閤様。或ハ其後裔ノ爲ニ盡ス
所アラントスルノモ。故ニ今宜シク全カヲ盡シ
テ。秀頼公ヲ補佐シ。以テ君ノ意ヲ寧カラシメシ
トス。上件恩惠アルノ外。更ニ二事ノ添加スルヤ
リ。最モ驚駭スル所ナリ。秀頼公ヲ補佐シ。其成長
ヲ待テ。政權ヲ還附スル。又一ニハ賤女ヲ配シ。
昏嫁ヲ結フ。ト爲ソ。全カヲ盡サ。ルベケンヤ。
大御所説キ終テ。流淚頼ヲ濕ス。既ニノ新郎秀頼
公及大御所ノ二歳女太閤様ノ病蓐前ニ列坐シ。
日本式ニ據テ。結縁ノ禮ヲ行フ。將軍常例ノ如ク
其式ヲ行フニ。華美ヲ極ムト。虽僅カニ一日ノ儀。
此祝賀終ル後。太閤様ハ諸侯伯ヲ招集シテ。誓約
シテ曰ク。衆皆秀頼ヲ補佐シ。其十五歳ニ至ルヲ

諸侯誓約

トス。上件恩惠アルノ外。更ニ二事ノ添加スルヤ
リ。最モ驚駭スル所ナリ。秀頼公ヲ補佐シ。其成長
ヲ待テ。政權ヲ還附スル。又一ニハ賤女ヲ配シ。
昏嫁ヲ結フ。ト爲ソ。全カヲ盡サ。ルベケンヤ。
大御所説キ終テ。流淚頼ヲ濕ス。既ニノ新郎秀頼
公及大御所ノ二歳女太閤様ノ病蓐前ニ列坐シ。
日本式ニ據テ。結縁ノ禮ヲ行フ。將軍常例ノ如ク
其式ヲ行フニ。華美ヲ極ムト。虽僅カニ一日ノ儀。
此祝賀終ル後。太閤様ハ諸侯伯ヲ招集シテ。誓約
シテ曰ク。衆皆秀頼ヲ補佐シ。其十五歳ニ至ルヲ

待ツ一シ。其間諸事大御所ニ聽從ス一シ。此誓約
書ニ各血判ス。然レモ太閤様ハ更ニ此約ヲ固定
セシカ爲ニ各人ニ格外ノ恩賜アリ。老叢ノ士亦
暴富ヲ致スニ及ヘリ。大御所ノ外。四大侯ヲ擧テ
國事ニ當ラシメリ。後最愛スル所ノ淺野彈正ヲ
加ヘテ五人トナシ執政ノ長タラシメ。諸人ヲシ
テ誓約シテ。秀頼成長シテ國事ニ當ルヘキヲ待
タシム。其間諸事現今ノ狀ニ據リ。絶テ違背勿ラ
シム。
更ニ諸侯合力一和シテ。異議勿ク。違背スル者ハ

其國ヲ奪フヘシトス。諸侯ヲ親睦同心ナラシム
ルハ婚姻ヲ結フニ若カストシ。病蓐前ニ於テ各
々子弟婚嫁ノ式ヲ行ハシム。貴族大身各家相婚
娶連結ナラシム。或ハ其家ノ女ヲ養テ。美女トナ
シ。之ヲ某郎ニ配スルアリ。

○又大阪城ノ周圍ニ夥多ノ邸宅ヲ建築セシメ。諸
侯皆全家族ヲ擧テ爲ニ住居セシム。此工作ニ從
事スルノ工人。數千人ナルヲ知ラス。此意ヲ達ス
ルカ爲ニ喪ヲ秘セシム。蓋シ竊カニ謂ラク。死後
ハ日本全國爭亂ニ屬スヘシ。故ニ工作ヲ急速ニ

シ。諸侯伯ヲ遠國ヨリ招集シ。其威カヲ殺キ之ヲ
陷甯ニ入テ。縛ニ就クカ如クナラシム一ト。
太閤様永久不朽ニ保存セシカ為ニ。生時ニ於テ
一廟ヲ建設ス。精巧ナル。日本全國中ノ屈指ナ
リ。其内ニ一金像ヲ置ク。蓋シ肖像ナリ。大理石ニ
テ築クノ塔上ニアリ。塔下ニ遺骸ヲ埋葬セシム。
火葬ニアラス。是日本定例ニ戻レ。遺言ニ據ル
ナリ。抑モ此公。少時伐木ニ從事セシ。藤吉郎ト
稱セリ。後羽柴ト稱シ。將軍ニ上ルニ及テ。太閤様
ト稱セリ。然レ。此終焉ニ臨テ。死後神タラシキ望

ノリ。則チ新八幡ト尊稱セリ。軍事ニ精妙ナルヲ
以テ。新軍神ト為スノ意ナリ。尊上ニ在テ。夜着ヲ
被ヒ。卧狀ニテ葬ムル所ナリ。
尚生ヲ存スルニ方テ。伏水城ニ移居シ。静養以テ
終ヲ執ラント欲ス。是ニ於テ。諸侯伯及秀頼ニ告
別シ。更ニ之ニ諭ス。自後大御所ヲ父ト稱シ。其
教訓ニ隨フヘキヲ以テシ。且ツ。宮女ニ諭ス。亦
然リ。近侍ノ者。教人及醫生ノ曾テ。病床ヲ離レス
ノ看護シ。或ハ良法ヲ考案スヘキ者ヲ伴フニ過
キス。此告別ノ後。滿宮ノ人皆別ヲ惜テ止マス。蓋

シ此公ニ仕テ立身出世ヲ期スルニ自後復々相
見ルヲ得サレハナリ啼泣號哭ノ聲城外ニ溢ル
其門ヲ密鎖スルモ尚然リ既ニノ門外相傳ヲ太
閤様薨去セリト

此風説流傳迅速ナルヲ火ノ如ク隨テ草賊蜂起
シ諸道通行シ難キニ至ル彼此或ハ喪ニ居ルア
リ是日本將軍薨去ノ件ノ禮ナリ羅馬式ニ異ナ
ラス猶カレジナルノ新法王ヲ撰フ件ノ如シ就中
大政京都及伏水ノ人民騷擾スルヲ殊ニ甚クシ
官吏ノ力此騷擾ヲ制止スルヲ能ハス伏水城ノ

周田ニ於テ諸候土水ヲ起シ諸道ヨリ軍人ヲ招
集スルヲ以テ薨去ノ説愈盛大トナレリ
世人太閤様薨去ノ説ヲ唱フルヲ十日許ナリシ
ニ病勢稍减退スルヲ以テ二候ニ意中ヲ告ケ之
ヲ大政ニ送り大政城建築ヲ督責シテ速成ヲ監
セシム且伏水ヨリ大政ニ移住スルノ諸候ニハ
路費トシテ夥シク米穀貨幣ヲ賜與セリ城田ノ
新築三里ナルヲ以テ工人ヲ役スルヲ裁十ナル
ヲ知ラス日々多賤ヲ賜フ周田ニ在ル所ノ商肆
吏舎一萬七千家以上三日間ニ取崩サハルヲ得

秀頼結婚

ス。各々二十四時内ニ空地トナシ納メサレハ貨
賤ヲ没収スルニ至ル。為ニ新居ヲ営ムヘキノ廣
地ヲ指示ス。各標準アリ。右街ハ革匠ニ属ス。建築
達滞スル者ハ。地面及家屋ヲ失フヘシ。一家一棟
ニ過クルヲ得ス。土木ノ工。晝夜ヲ論セス。是ニ於
テ大ニ城郭。及市街ノ外觀ヲ壯大ニセリ。此工事
ハ太岡様薨去ノ説起リシヨリ。次第ニ減サシ。各
人皆謂ラク。此事能ク官吏ノ固守スル所ニ非サ
ルヘシト。

既ニノ八月三日。四日ニ於テ。太岡様稍輕快ヲ得

タリ。是ニ於テ。幼子秀頼ノ結婚ヲ急速ニシ。更ニ
諸侯ト新約ヲ訂シ。各位階ヲ進メント欲セリ。然
レ。八月五日。病勢再々急迫スルヲ以テ。城門ヲ
堅閉シ。薨去スルモ之ヲ門外ニ知ル勿ラシメン
トセリ。是ヨリ病勢愈險惡ニ進ミ。十四日既ニ生
火滅スルカ如キ。久シ。諸人皆以テ薨去トス。既
ニノ呻吟復ニ獲生ヲ得タリ。但シ暫時ニシテ精神
昏迷シ。嚙語喃喃。條理ナシ。唯秀頼ヲ日本將軍ト
為ストノ語ヲ及復シテ終焉セリ。實ニ千五百九
十八年八月十六日ナリ。壽七十四歳。信長京都ニ

太岡終焉

於テ明智ノ為ニ弒サルノ後職ニ在ルヲ十五年
ナリ。信長ハ智畧ヲ以テ戰勝テ位ニ登ルト。虽畢
竟太閤様ノ為ニ荆棘ヲ用ク者ト云ヘシ。太閤様
固ヨリ此ノ如キノ機會ヲ待ツ所ナリ。信長ニ三
子アリ。伯ハホセキユイサマナリ。信忠ヲ云フ。父ト
同シク戦争闘死セリ。火ヲ縱テ仲ハオシヤセンホン
ケドノニテ愚鈍ナリ。季ハ僅カニ三歳ナリ。太閤
様之ヲ補佐シテ位ニ登セリ。但シ自ラ大ニ威權
ヲ得ルヲ以テ信長ノ子ノ美濃ニ在ル者ト和ヲ
講シ。終ニ已大職ニ當レルナリ。

喪ヲ秘ス。

此時大御所及諸候輩。太閤ノ薨去ヲ秘シ。相誓テ
之ヲ口外セズ。近侍ノ人輕忽之ヲ言フ者アレハ
則チ刑ニ處ス。此嚴諭アルヲ以テ諸人皆鉗黙ス
ルヲ得タリ。然レモ久シカラズノ故秘事世ノ知
ル所トナレリ。諸候亦大御所ト相親和セス。互ニ
相及目スルニ至レリ。諸候大御所ノ命ニ隨從セ
ズ。終ニ大御所ヲシテ秀頼ノ後見タルヲ止メ。關
東八州ノ守ト稱スルニ至レリ。且執政アリテ相
議シテ事ヲ執リ。一人ノ為サント欲スル所必ク
ス他ノ四人ノ意見ヲ聞カサルヲ得ズ。此ノ如ク

五奉行。

新八幡

スレハ大御所慮ルニ足ラスト謂ヘリ。
 日本人ハ異常ノ勲功アレハ則チ其名称ヲ變ス
 ルヲ習慣トス故ニ大御所ハ家康ト變シ後又内
 府様ト称ス尚別ニ名アリ
 太閤様ヲ神葬ニス廟堂及肖像ハ曩ニ構造スル
 所ナリ遺骸ハ石室ニ納メ之ヲ土中ニ埋ム是ニ
 於テ新八幡ト称ス
 此ノ如ク變名シテ神ニ并入スルハ往時希曠及
 羅馬ニテハ普ネク為ス所ナリ故ニロミユリユスヲ
 キユリニユスユノヲマキユタレウユタチアルビユネアノリ

セルナヲパラモシレダチネノシスシルセチマリカノルシ
 リアヲホラレアチ神母イダダチジンテノダヒ
 レナヲヘシニユンケアセーベレチベレセーンチアト
 称スルナリ
 將校ノ軍効アル者ヲ追尊シテ神ト為スハ日本
 ニテ今始テ之ヲ創意シタルニハアラヌ此風習
 ハ二千年前ヨリ既ニ存スル所ナリ國父ヲク
 シチウスヒルミアニユス以テ証スルニ通セリ
 不丹煉ニノ昏迷ナル人ヲ神ト名ケ拜祈スルハ
 不注意ニノ事理ヲ解セサル者ト云フヘシ誰ヲ

カ神ト為シ尊敬ス一キヤ則チ大ニ有効ナル王
公記臆スヘキ勇猛ノ事業ヲ成セシ人又藝術ヲ
發明スル一アリテ大ニ世人ノ愛敬スル人ナリ
アウギユステートシハ大神ナリ是シロ匿名ニ
テユビトテルユノサケユルニユスヒユルカニ
ユスヘスタ及他ノ諸神ト共ニ世界ノ各部及元
素ヲ發明シタル人ナリトスルナリ
希臘記者ジオドリユスシキユリユス更ニ曰ク
カユスユリウスカトサルハ其軍効アルカ為ニ
神ト称セラルト其緬位ノアウギユスチユスハ

之ヲ進テ星ノ上ニ在ラシム羅甸詩人マルキユ
スマニリウス亦之ニ關セリ其詩意ヲ阿蘭語ニ
譯スレハ

彼今神トナル大ニ神徳アリ高ク上テ星
ニ連ス而ノ天ニ存生ス羅馬國ハアウギ
ユスチユスノ膝下ニ在リ
プリニユスハ其効ヲ論シテカイサルトラヤニ
ユスヲ賞ス其先代アウキユスチユスヲ天ニ進
ノ以テ尊敬ス一キ神徳ヲ具セリトスレハナリ
ネロハカラウジウスヲ神ト為ス但シ之ヲ嘲弄

スルナリ。テチユスハヘスバシアーシテ神ト為
シドミチアーシハチチユスヲ神ト為ス。但シチ
チユスハ神ノ子ニブドミチアーシハ其第ナレ
ハナリ。汝ハ汝ノ父ネルフハヲ星ノ上ニ葬スヘ
キナリト。

其他希臘ニテハ既ニ死シタル人ヲ不死ノ神ナ
リトノ尊敬スルヲアリ。故ニラセモデニール人
ハアガノハノシヲ尊敬ス。是トローイハルノ十
年ノ戦争ニ大將タレハナリ。其弟ノネラウス亦
然リ。是スバルタートン王ナリ。又アルカジールハ

アリスタウスヲ尊奉ス。蓋シ屍体ハ臭氣ヲ放ツ
者ナルニ之ヲ防クノ法ヲ始テ教ヘタレハナリ。
アルセニウスモホムバシーンシスノ証スルカ
如ク。リヘル人ノブサボシヲ神ト為スハ大ニ
驚クヘキナリ。是悪性ノ人ナリ。然レモ鳥ニ人語
ヲ教フルノ術ニ巧ミナリ。則チ其術ヲ以テ鳥ニ
教テ。ブサボシハ神ナリトノ語ヲ習ハシム。既ニ
ノ其鳥習熟スルニ及テ之ヲ放チ。衆鳥相倣フテ
之ヲ擬スルニ至ル。各地ノ人氣中鳥聲此語ヲ為
スヲ聞ク。終ニ世人ノ評判トナレリ。抑鳥ヲシテ

此人語ヲ習ハシムルハ。多クノ辛苦ヲ要スルナ
リ。カルタギニーンノ一將軍ハ。後此秘訣ヲ
授リ之ヲ試ミタリ。則チ鳥ヲシテハ。神ナ
リトノ人語ヲ為サシメシト。骨神シタレトアリ
ユアニスノ証スル如ク。終ニ其意ヲ達スルヲ
得サリシナリ。
アルギヘルスハ。ベルセウスヲ神ト為ス。是其軍
効赫々タレハナリ。エビダラリユスハ。アスキユ
ラピウスヲ尊奉ス。是醫術ニ於テ多ク秘事ヲ茂
明シタレハナリ。往時希臘人皆之ヲ倣ヒ。又羅馬

人モ大ニ之ヲ尊奉シ。羅馬府外ニ於テ為ニ一廟
ヲ造レリ。

三
アテニーンセルハ。預言者アムビロキユスヲ尊
奉ス。其寺ハリヒウスノ説ノ如ク。極テ舊シ近傍
ニ噴泉及池沼アリ。景色極テ佳ナリ。更ニ彼此ノ
緣由アリテ。アテニーン諸王ヲ皆神ト為ス。故ニ
此部位ヲ擴張シテ。天ニ達セシム。蓋シトリプト
レニユスノ為ニ。耕耘播種スルナリ。エリクトホ
ニウスノ為ニ。四馬ヲ具スルノ車ヲ捧ク。エレク
テウスハ。其女ト共ニ星ノ上ニ達セリ。何トナレ

ハ其父デルビセ妖言ヲ信スレハナリトヲシ
ルエウモルピユスニ及スルアテニ人ニ預
言シテ曰ク若シ王其女ヲ牲ト為サハ意ヲ達ス
ルトテ得ヘシト是ニ於テ強テ其女ヲヒヤシン
テユス村ニ於テ父ノ為ニ殺セリ
又テセウスハセレクヲ領スル王ミノスノ一將
タクウリユスニ對戦シテ大ニ勇威ヲ著シタリ故
ニアテネンノ中部ニ於テ一廟ヲ築キ茲ニ其遺
骨ヲ埋メテ之ヲ尊奉セリユテリユス亦同衆譽
ヲ得タリ蓋シビロポンネシールノ陣中ニ乞巧

ヲ擬シテ潜行シ其軍略ヲ探偵シタリ是其死ヲ
以テアラニ人ニ勝利ヲ興フヘシトノ預言
ニ從フナリ何トナレハデルビセ妖言ニハ若シ
アテニシール王ヲ殺スニ非サレハビロホンネ
シールス勝ヲ得ストスレハナリ故ニアウギユ
シテインノ語ナリアテニール人ゴトリユスヲ
神トスルハ其犠牲タルノ切ヲ賞スルナリ
テバネル人ハ其王リベルヲ神ト為ス是葡萄ヨ
リ酒ヲ搾ルトテ創意シタレハナリ又其伯父イ
ノ其子ノリエールテノ二人共ニ神事セラル蓋

シ海中ノ高礁ヲ碎キタルノ功アレハナリ。此ノ如キ習慣ハ日本ニモ存スル所ナリ。則チ日本ニテ神聖ナリトスル所ノ者ハ阿彌陀釋迦及他ノ日本人ノ重石ヲ抱テ水中ニ沉没スル者ヲ云フナリ。前ニ説ク所ノ如シ。又往時ハ殊ニ既日土波斯及印土ニ於テハ苟クモ惡事ヲ行ハサルノ歷代ノ王皆其生時或ハ死後ニ於テ之ヲ神ト為スノ習慣アリ。歷山王ニ追従スルセンオ曰ク羅甸ノ歴史家キユルチウスノ説ニ波斯人ハ帝ニ神聖ノミナラス更ニ諸王

ヲ皆神ナリトス。何トナレハ政令宜キヲ得ルハ安全ヲ得ル所以ナリ。ヘルキユレス。及其父バクキウスモ同時世ノ人ノ怨恨ヲ解クノ前ニハ神ト為ルヲ得サリシナリ。後世ノ人當時ノ人ヲ尊テ神ト為ス一キナリト。王ヲ尊テ神ト為スハ方今尚タツテルスニ於テ然ル所ナリ。タツタレトネンノ第四部ハカタヤ則キタイナリ。其首府カレバリユハ大ナルカムスノ住所ナリ。此地ニ緻密ナル絹ヲ販賣ス一日モ休業スルナシ。若シ一日之ヲ怠レハ數千輛

キタイ七部
カミユル
エレギミユル
カイシジユ
テンダク
テベト
カラサン
タングユテ

ノ車ニ絹ヲ積テ街上ニ山ヲ為スニ至ルヘシキ
 タイハ全國ヲ分テ七部ト為ス則チカミユル
 ンギミユルカイシジユテンダクテベト此地ニ
 ハ貨幣ニ換ルニ珊瑚ヲ以テスカラサン是出産
 ニ就テ驚怪スヘキ風俗アルヲ以テ有名ナリ則
 チ婦女分婉スレハ其夫孱ニ在ル四十日十
 ルヘケレハナリ及タセギユテナリ此地ハ千年
 前ニ於テ早ク既ニ印刷術ヲ知ル羅瑪僧ヨアン
 グリユベルハアタナシウスキルセリエスノ如
 クタングユテヲ旅行シテ支那ニ赴ケリ其王タ

テルス之ヲデハト稱スニ謁シテ親切ニ饗應
 セラレ命セラレタルノ肖像ナリ是
 往時ノタングユト王ニゾ十四子ノ父ナリ極テ
 善良ニゾ且政事ニ熟煉ナルヲ以テ國人ノ大ニ
 尊敬スル所ナリ又デハノ肖像ヲ寫シ取ル
 命セラレタリ此二人四角ノ臺上ニ半身ヲ現
 スハレハ顔色薄藤色ナリ髭栗褐色髪ハ灰白色
 ヲ交ユ眼目突出シ頭上ニ帽ヲ戴ク但シデハ
 ハ顔貌少壯ニ髭ナシ又髪ヲ剃除ス此二隊ノ
 前ニ三燈ヲ掲ク

羅馬人ノ亡帝ヲ送テ昇天セシムルノ所業頗ル
奇異ナリ。火葬ノ火ヲ保持スルニ天幕ノ如キヲ
以テシ。黄金象牙及貴重ナル粧飾ヲ設ク。上端ハ
尖リ高ク三尖ナラシム。其上ニ鸞ヲ置ク。各廊下
ニハ香料ヲ薫ス。最下層ニ卧床ヲ置キ。金彩紛乱
セル錦綉ヲ被フ。其上ニ帝ノ肖像ヲ置ク。執政及
諸貴官各卧床ヲ荷フテ火葬所ニ送ル。神歌ヲ唱
ヒ。敬肅シテ事ヲ執ル。詐リ怒テ火ヲ天幕ノ周圍
ニ放ツ。煙ト焰トノ為ニ鸞飛テ高ク天ニ至ル。以
テ靈魂神ト為ルノ徴トス。體外ノ諸物悉ク灰燼

ト為ス之ヲ公告シテ帝ノ神ト為ルヲ明ラカニ
ス。

古來ノ習慣ニ依テ人民拳テ太同様ヲ新八幡ト
稱シ軍神ニ奉事セントス。五執政ト内府様ト各
同心協力スヘキニ忽テ相分離セリ。執政五人ハ
同心一和シ内府様ハ關東ニ歸ル。前ニ説クカ
如シ此紛乱ハ兵力ニ因ルニ非サレハ判決スル
ヲ得ス。是ニ於テ東西共ニ兵ヲ養ヘリ。

○**空**執政ハ一途ニ京都ノ通路ヲ塞クヲ勉メ伊勢及
美濃ニ人致ヲ招集セリ。蓋シ此ニ州ハ尾張ニ接

東西兵ヲ養フ。

岐阜城陷ル

近スルヲ以テ内府様ノ領地ヲ侵掠ヒシカ為ナ
リ。曾テ美濃ニ三城アリ。内府様ニ襲ハル所ナリ。
更ニ堅城岐阜アリ。是中納言殿ノ住スル所ナリ。
此人二十ニ歳ナリ。太守タリ。之ヲ領ス。治部之丞
兵七千ヲ附シ。更ニ執政ヨリ頻ニ助勢ヲ送レリ。
蓋シ相共ニ力ヲ合セテ。尾張ヲ陷レ。且ツ内府様
ヲ捕ヘントスルニアリ。
然レ執政軍議遲滞スルニ聚シテ。内府様ハ二
萬五千ノ兵ヲ率テ急速ニ岐阜城ニ迫レリ。此城
ハ高山ニアリ。則チ多勢ヲ山後ニ伏ヒ。七百ノ人ヲ

以テ岐阜城ニ密着セリ。城主中納言殿勇ヲ奮テ
敵ニ當ルト。虽終ニ支フル。能ハス。漸次ニ退縮
シ。中納言殿ハ後隊ノ中ニ入ル。此城強敵ヲ文ノ
ル。能ハス。更ニ前後ノ兵相連合シテ。終ニ一團
トナルカ。故ニ創傷ヲ蒙ムラサル者ナシ。中納言
殿辛クシテ。僅カニ致人ヲ携テ。櫓ニ上ル。復夕防
禦スルノ策ナシ。終ニ擒ニ就キ。生命ヲ他ニ任カ
セリ。
戦勝者ハ降人ヲ尾張城ニ送り。岐阜城ニハ強兵
ヲ置テ。之ヲ鎮ス。而シテ此捷報ヲ治部之丞ニ報知

路上内府様ニ降ル者二千。其後更二千。此事ヲ敢テ治部之丞ニ告クル者ナシ。薩摩候及小西櫻津守殿。此事ヲ聞テ大ニ激茂シ。兵ヲ治部之丞ニ進ム。内府様之ヲ探偵シ。則チ兵ヲ餘方河畔ニ進ノ。進軍ヲ遮ラシム。内府様ハ前岸ニ掲クルノ旗ヲ見テ。兩候ノ下ニ更ニ新兵ノ増加スルヲ知ル。是ニ於テ兵ヲ止メシノ。文障スルノ状ヲ示ス。治部之丞少許ノ兵ヲ以テ烏ソ能ク此強盛ナル兵ヲ侵スヲ得ンヤ。軍勢諸國ヲ徘徊シ。各私利ヲ營マン。トテ勉メ。日

本全國騷乱ニ属セリ。豊後ニ於テ官兵衛殿内府様ノ陣中ヨリ報告ヲ得。其子甲斐守水路内府様ニ属シテ。戦勝スルノ状ヲ知ル。是ニ於テ奮茂シテ。八千ノ兵ヲ以テアラシキスキユスヲ殺セリ。豊後ノ亡候ノ子ハ。太閤様ノ命ニテ。久シク京都ニ在留セリ。然ルニ今。回執政ノ免許ヲ得。四千ノ兵ヲ以テ。豊後ニ入ルナリ。従者之ヲ慫慂シ。自ラ候トナリ。官兵衛殿ヲ襲ハン。トテ勸メリ。然ルニ此事全ク別状トナレリ。何トナレハ。フアラシキスキユス。足テ此地ニ入

ルヤ否。忽チ打タレ。且捕ハレタレハナリ。致日ニ
ノ豊後全國內府様ニ帰セリ。

○^三執政ノ勢力。次第ニ減縮セリ。肥後ノ國ニ二候アリ。半部ハ主計殿。半部ハ小西撰津守殿ノ領スル所タリ。甲ハ内府様ニ屬シ。乙ハ執政ニ附ス。而シテ餘方川ニ在テ内府様ニ抗セリ。主計殿國ニ在リ。兵火紛乱シ。有名ナル宇土城ヲ圍ノリ。更ニ九州諸候ノ間ニ紛亂騷擾起リ。或ハ執政ニ屬スルアリ。或ハ内府様ニ屬スルアリ。或ハ中立スルアリ。有馬候及大村候ハ始メ執政ニ屬シタ

ルニ兵ヲ京都ニ送ル一キノ命ヲ得テヨリ。内府様ニ附セリ。執政ハ各種ノ軍兵ヲ日本全國ニ散布シ。彼此内府様ニ屬スルノ諸候ヲ侵サシム。然レモ其思慮測リ難キヲ以テ。全軍ヲ一集シ。平野ニ於テ一戦ヲ決セントス。其地ハ則美濃トス。速カニ来リ會スル者八萬人。謂ラク少時間ニ内府様ヲ潰爛スヘシト。蓋シ其勢僅カニ三萬ナレハナリ。執政ノ命令一定セス。評議徒ラニ時ヲ費ヤスヲ以テ。各將意ヲ異ニシ。核會ヲ失シ。三十日間尚此弱敵ヲ衝クヲ得ス。抑モ措置當ヲ失スレハ

関ヶ原之役

ナリ。内府様ハ其子越前守ヲシテ一隊ノ軍ヲ率テ景勝上杉ニ當ラシメ、其他ヲ尾張ニ向ハシ。此地ニハ京都及他地ヨリ多人集會シ、既ニ五萬ニ及フ所ナリ。此勢ハ皆以テ執政ニ抗拒スル所ナリ。既ニノ戦争始マレリ。太閤様ノ地抗前ノ國ノ甥ナル中納言殿曾テ岐阜ノ陷ル片ヨリ尾張ニ在リシニ、今城ヲ出テ勢ヲ率テ内府様ニ帰シ、次テ他ノ三將亦之ニ隨ヘリ。大ニ執政ノ前軍ヲ破レリ。是ニ於テ陣中大ニ紛亂シ、皆曰ク變心者アリ。

變心者アリト全軍錯亂制止スルヲ能ハス。隊長ハ其隊ヲ整頓スルヲ得ス。或ハ旗ヲ離レ、或ハ足相踏ミ、前軍既ニ潰テ中軍ニ入り、相紛亂シテ序次ナシモ利殿ハ左翼タリシニ、戦ハスシテ退キ、内府様ノ軍勢ノ進路ヲ用キ、後軍ハ散乱セリ。是ニ於テ少時間ニ於テ全事終レリ。則、或ハ闕死ス。蓋シ敵手ニ死スルアリ、自裁ニ由ルアリ、免カル者少ナリ。或ハ捕ハルアリ。治部之丞、小西、榎津守殿亦降人中ニアリ。蓋シ甲ハ慄怯シテ自裁スルヲ欲セス。乙ハ信奉スル所ノ耶蘇教徒ニ於テハ。

澤山城陥ル

決シテ此ノ如キ自盡ヲ許サレハナリ。否ラサ
レハ必ラス技刀以テ自ラ割腹スヘキ所ナリ。
此ノ如キ大捷ヲ得ルモ内府様決シテ由断セス。
戦場ニハ六萬ノ屍散乱セリ。復タ之ヲ支障スル
者ナシ。是ニ於テ自ラ美濃ニ赴キ更ニ一軍ヲ近
江ニ向ハシム。是其堅城澤山ハ沼部之至ニ属シ
曾テ其第ノ住居セシ所ナリ。城内ニテハ此敗報
ヲ聞キ且内府様ノ来ルヘキヲ知ルヲ以テ之ヲ
拒ク所以ノ策ヲ求ムルニ其免カル可ラサルヲ
知ルヲ以テ謂ク乱軍中ニ死セニヨリハ寧ク自

六七 裁スルノ潔ニ若カスト但シ此ノ如キ残酷ナル
所業ハ日本人ノ勇名ヲ求ムルニ出ル所ナレト
實ニ誤慮ト言ヘキナリ。此時城主内府様ノ前軍
ニ向テ九ノ所有スルノ珍器財寶ヲ寄贈シ久シ
ク貯テ損敗スルコト勿ラシメ自ラ沼部之丞ノ妻
及己ノ子輩ヲ手刃シ終ニ親シク割腹セリ。此城
ヲ内府様ノ用ニ供セサラシムル為ニ火ヲ四方
ニ縱テ灰燼トナシ貴族ノ遺骸ハ皆之ヲ火中ニ
投シ内府様ノ未夕至ラサル前ニ於テ此事ヲ成
セリ。

時ヲ賞ヤサスシテ。全城灰燼トナレリ。毛利殿ハ
左翼ニアリテ。戦ハスト。虽九ヶ國ヨリ新兵ヲ募
集スル所四萬ニ及ヲテ以テ。恰モ黒雲ノ浮フカ
如ク。忽チ非常ノ雷電ヲ復動スルヤ。圖ル可ラス。
其成果又覆如何ヲ預定ス可ラス。然ルニ此ノ二
事ヨリシテ。東軍全勝ヲ得ルニ至レリ。
内府様ノ最モ注意スル所ハ毛利ノ軍勢ノ外更
ニ大坂城ナリ。是日本無二ノ堅城ナリ。抑モ太閤
様ノ大ニ心ヲ盡クノ築ク所ナリ。糧食軍器一モ
缺ク所ナシ。又別ニ第三ノ難事アリ。若シ毛利殿

大坂城陥ル

此堅城ニ據ルヲアラハ。全國ノ富ヲ有シ。諸候ノ
人質ヲ握リ。内府様ノ人質ヲモ。又太閤様ノ子ナ
ル秀頼ヲモ手中ニ執ルニシ。且此城内ニハ食料
軍器充備スルヲ以テ。之ヲ支フルヲ致年ナルモ。
疲弊スルヲ勿ルニキナリ。
然ルニ毛利殿ノ所業大ニ之ニ異ニシテ。一物ヲ
モ掠ノスノ城ヲ引渡セリ。則チ自ラ傍觀者トナ
リテ。大坂外ニアル別邸ニ居リ。終ニ自國ニ歸リ。
敵對セサルノ意ヲ示シ。敢テ恩惠ヲ望マズ。
内府様ハ大坂城ノ陥ルヲ意外ニ容易ナルヲ怪

シム。此城ト共ニ全權總テ我ニ歸セリ。全國ノ人
質モ質賤モ秀頼尚且生命ヲ委セリ。全國誰カ敢
テ將軍ニ任スルヲ可否スル者アラシヤ。秀頼ヲ
退ケ自ラ太閤様ノ職ヲ緝クモ容易ナリ。但シテ
シク意ヲ置ク一キハ景勝上杉ナリ。是關東ノ末
端ニ在テ尚執政ノ為ニ兵ヲ養フ所ナリ。又薩摩
侯アリ。最後ノ野戦ニ於テモ其剛勇ヲ知ル一シ
蓋シ周田ノ打ツ所タルモ能ク之ヲ防キ殿タリ。
諸軍敗走シテ復タ如何トモ為ス可ラサルニ及
テ尚進テ背ヲ見セス。六十人ノ猛兵ヲ率テ一線

ノ血路ヲ開キ大坂ニ退キ六百人ヲ以テ尚内府
様ニ抗シ。暫時之ヲ防キ船ヲ艦シテ薩摩ニ歸レ
リ。蓋シ大坂ヲ距ル一百里ナリ。是ニ於テ兵
ヲ養ヒ敢テ内府様ニ降ラス。
怯懦ナル毛利殿ノ命ヲ助ケ之ヲ隱所ヨリ尋ホ
出シ其領地九ヶ國中銀鑛多キ七ヶ國ヲ奪ヒリ。
是ニ於テ關東八州及毛利殿ノ七國又太閤様ノ
舊領總テ我手ニ屬セリ。
関ヶ原ノ役。
六 中納言殿ハ一千六百年ノ有名ナル戦争ニ於テ
執政内府様トノ間ニ在テ別軍ノ如クニノ終ニ

僧興山

内府様ニ歸シ。為ニ全勝ヲ得タリト。虽此降將ヲ
賞セズニテ。却テ其領國筑前ヲ奪ヒ之ヲ高野ニ
放ツ。是貴族ノ牢獄ナリ。蓋シ僧興山ノ大ニ威權
ヲ振フ所ニテ。三年前ニ於テ關白殿ノ非業ノ終
焉ヲ為セシ地ナリ。中納言殿ト共ニ筑前ニ在ル
諸貴族及近臣。皆日本ノ習慣ニテ妻子ト共ニ斬
刑ニ處セラレタリ。

内府様日本全國ヲ掌握シ斯ノ如ク全勝ヲ得ル
ト。虽日本尋常習慣ノ如クニ他ヲ殲盡スルヲナ
シ村落市街ヲ蹂躪スル等ノ事ハ絶テ之ヲ行ハ

ス。此等ノ惡業ハ戦争ニハ毎ニ免カレサル所ナ
リ。是故ニ今日ニ及テモ尚無數ノ市街或ハ全部
或ハ一部家屋焼滅或ハ潰崩人民離散スルノ痕
ヲ存スル所アルナリ。然ルニ内府様ハ撫恤仁愛
ヲ主トスルヲ以テ降人ヲモ許シテ敢テ妄リニ
殺スルナシ。

唯其巨魁三人ヲ誅戮シ而ノ他ハ皆之ヲ許ス。近
江ノ太守治部之丞。是執政ノ軍ヲ主裁スル所ナ
リ。肥後半國ノ主振津守殿及毛利殿ノ主謀ナル
安國寺惠瓊是ナリ。此人甲斐守ニ捕ハル。其始ハ

巨魁三人ヲ誅ス
石田治部之丞
小西振津守
安國寺惠瓊

身位ニ應シテ響應サル其暴行ヲ防クニ護兵ヲ以テシ。次テ苛責シ終ニ大坂ニテ堅牢ニ入ル。是ニ於テ死刑ヲ申シ渡サレタリ。瘦馬ニ乘リ大坂市中ヲ廻行シ更ニ二輪車ニテ京都ニ送ラレ。衆人群集中ヲ通過セリ。群人中或ハ貴人ノ刑ニ憂セラルヲ痛歎スルアリ。或ハ此難法人ヲ詈罵嘲弄シ且耻辱ヲ加フルアリ。第一治部之丞第二安國寺惠瓊最後撰津守殿ナリ。各車ノ前ニ喇叭ヲ吹キ高音以テ此執政ノ國家ヲ亂サントスルヲ憂刑スルヲ鳴ラスタリ。

小西行長刑セラレ

撰津守殿ハ刑ニ臨テウシモ恐ルノ状ナシ。他ノ二人ハ大ニ憤怒シテ冤ヲ許ハ憂刑當ヲ失スルヲ述フ。刑場ニ臨ムニ及テ衆僧来リ會シ罪業消滅シテ彌陀ノ傍ニ往生セン。ナリテ誓願ス。唯津守殿ノミハ僧ヲ辭ス蓋シ耶獲教徒タルヲ以テ此ノ如キ所業ヲ厭フナリ。此刑座ニ就クニ方テ大和尚出現セリ。此僧ハ貴人ノ憂刑ニ非サレハ敢テ容易ニ此ノ如キ場ニ臨ム人ニアラス。隨後スル衆僧皆釋迦ノ經典ヲ手ニス。誦讀終リ治部之丞及安國寺惠瓊刑セラレノ後經典ヲ口ニ接ス。

石田三成
安國寺惠瓊刑セラレ

然レ氏津守殿ハ大和尚ヲ厭フテ魔ト為シ耶蘇
教式ニ據テ懷中ヨリ基督及摩理ノ肖像ヲ出ス
是葡萄牙王カタリナ弟五世カールヨリ曾テ教
師ニ托シ彼ニ寄贈セシ所ナリ兩午ニ画像ヲ捧
ケ之ヲ熟視シ禮拜シ頸ヲ延シ刑ヲ待ツ刀ヲ震
フト三四ニノ身首露ヲ異ニセリ他ノ二人モ憂
置ノ狀相同シ其屍ハ日本式ニテ直々ニ之ヲ火
葬ニスルナリ但シ津守殿ハ京都ニ在ル耶蘇教
徒ノ請フニ任セテ之ヲ衣ニ包ミ當時羅馬教ニ
テ行フノ鄭重ナル式ニテ葬レリ

津守殿ニ一子アリ甫テ十二歳ナリ毛利殿之ヲ
廣島ニ置キ其臣僕ト共ニ隨意ナラシメリ然ル
ニ津守殿刑ニ就クノ後教日ニノ己ノ居ル所ノ
大坂ニ招キ寄セントス之ヲ警固スルノ獄卒モ
利殿ノ死刑ニ憂ス一キノ意ヲ漏セリ兎之ヲ聞
テ亦シモ恐懼セス死ヲ求メリ曰ク父既ニ死ス
余豈ニ何ソ生テ盗ンヤ嘗テ之ヲ耶蘇教徒ニ聞
ク相共ニ死シテ同シク天堂ニ往センノニ此身
彼地ニ至レハ父ニ面會スルヲ得ヘシト而シテ連
カニ大坂ニ来ラス毛利殿竊カニ之ヲ殺サシメ

明石全登。

其首ヲ内府様ニ贈リ。以テ感賞ヲ得ントス。然ルニ内府様ハ毛利殿ノ憂置ヲ喜ハス。謂ク此子父ノ死ヲ聞テ自ラ割腹セハ可ナリ。竊カニ之ヲ殺スハ大ニ他ノ恨ヲ引クヘキナリト。内府様此三人ノ巨魁ヲ刑スルノ他ハ總テ之ヲ許シテ其罪ヲ論セス。寛法ヲ以テ事ヲ憂置セリ。抑モ日本刑法ニ據レハ津守殿ノ妻子ハ死ヲ免カレス。他ノ已ニ歎セル類族モ皆然ルヘキ所ナリ。然ルニ皆措テ之ヲ向ハス。明石掃部ノ如キモ死ニ憂セサルナリ。戦争ノ始

ニ於テ西軍中最モ勇猛ナルハ此明石掃部ト薩摩候トニシテ大ニ東軍ヲ悩マヌ所ナリ。何トナレハ全軍降ルニ方テモ明石掃部ハ尚屈セス。周田ノ敵軍ニ向テ勇ヲ奮テ之ニ當リ。敢テ死ヲ顧ミス。謂ク敵手ニ降テ生ヲ盗マンヨリハ寧ロ闘死スルヲ勝レリト。然レモ奮戦ノ末終ニ甲斐守ノ指揮セル陣中ニ入レリ。甲斐守ハ其衣服及軍装ヲ見テ奮友ナル明石掃部タルヲ知り兵卒ニ令シテ之ヲ捕ヘシム。兵士隊長ノ命ニ應シテ明石掃部ヲ殺サントセシニ此事熱涙ニ堪サルナリ。

則チ曰ク親友ヨ余今卿ト相敵スルハ止ムヲ得
サル所ニノ悲歎ニ堪サルナリ日本全國ノ大戦
争ニノ互ニ相殺傷シ卿ハ執政ニ加擔シ余ハ内
府様ニ隨從シ各守ル所アリテ共ニ名ヲ競ヒ功
ヲ争フニ當テ勝敗一ナラス固ヨリ免カレサル
所ナリ卿ノ今日我カ手ニ来ル抑モ致ナリト明
石疲勞シテ短息ナリ應答言語ヲ為ス能ハス既
ニノ僅ニ低聲唇語シテ曰ク速カニ我首ヲ截テ
汝ノ職務ヲ全フシ又此刀ヲ一揮シテ余カ生命
ヲ絶チ併ヒテ國家ノ争亂ヲ一掃スヘシト然レ

元 氏甲斐守ハ之ヲ殺スニ忍ヒスノ其死ヲ宥セリ
元 激戦中ニ於テ丁寧ナル接遇ニハノルマンデトノ
一例アリ維廉第一世ハノルマンジセヘルトフ
ロベルト及アルロツテベルセルスノ子ナリロヘルト一
村ヲ經過セシ片某寺院ノ舞會ニ於テアルロツテ
ニ密會セシナリ四子ヲ設ケリロベルトリカルト
ウヰルヘム及ヘニリキナリマクチルトノ生ム所
ナリ是ヲラームセガトフボウテウヰンノ女ナリ更
ニ五女アリロベルトハ維廉ノ長子ナリ第一世
佛朗西王ビリヲガスニ挑撥セラレテノルマンデ

一戦争ヲ起セリ。其父ウヰルムハ英吉利ヲ奪ヒ
取り。大ニ満足セリ。然レモ執拗ナル子ノ爲ニ我
意ニ任セテ自在ニスルヲ得ス。是ニ於テ船ニテ
ノルマンジニ赴ケリ。遂ニ父子戦争ヲ構フ。兩
軍原野ニ相臨シ。對陣ス。戦國頗ル劇シ。第一戦ニ
於テ兩軍相亂レ。遂ニ父子相戦フニ至レリ。其子
ハ父ヲ馬ヨリ却シ。其臂ヲ傷レリ。而シテ兩人共ニ
全身軍装ヲ服スルヲ以テ互ニ其誰何タルヲ悟
ラス。然レモウヰルム氏落馬スルキニ叫喚セリ。
口ハルト氏其叫喚ノ聲音ヲ聞テ父タルヲ疑フ。既

ニノ果シテ父タルヲ知ルニ及テ鞍ヨリ飛ヒ下
リ。地上ニ伏シテ其過失ヲ謝ス。是ニ於テ戦争則
チ鎮止ス。然レモロベルト氏後尚安全無難ナルニ
アラス。許多ノ紛亂ノ後ワルレスニ在ルカレテ
一城内ノ宰ニ入セラレタリ。第一世英吉利王ハ
ンリキハ其幼子二人ヲ扶助セサリシ暴人口ベ
ルト氏ハ後存生スルニ二十四年ナリ。
内府様ハ執政ノ軍ニ向テ戦功アリシ諸人ニ褒
賞ヲ行フ。或ハ小候ヨリシテ大候トナルアリ。或
ハ大小ノ國土ヲ賜フアリ。日本全國大ニ顛倒セ

セリ。某候ハ市街及村落ヨリ新領地ニ轉移シ之
カ為ニ住人其地ヲ退テ他所ニ遷居スルアリ。總
テ内府様ノ指令ニ據ル長岡ハ丹後ノ一小部ニ
代テ豊後ヲ得。福島ハ廣島城及其屬地ヲ得。貴族
ニ出ルノ某ノ耶穌教徒ニ美作ニアル所有物ヲ
賜フ。蓋シ勇兵ヲ送りテ加勢セルヲ謝スルナリ。
又主計殿ニ因テ宇土城内ニ捕ハレタル五人ノ
耶穌教徒ヲ免シテ其罪ヲ問ハスシテ。隨意ニ長
崎ニ赴カシム。官兵衛殿ノ子甲斐守殿ヲ奉テ筑
前ノ太守ト為セリ。

争亂鎮靜スルノ後内府様ハ日本全國ヲ指揮ス
ル。秀頼ノ後見タル時ノ如シ。則伏水城ヲ駿河
ニ移セリ。而シテ内府様ノ称ヲ變シテ御所様ト称
セシム。千六百十一年歐羅巴諸國ヨリ使節皆此
地ニテ謁見セリ。葡萄牙及西班牙人ハ誤テ公ヲ
執拗ナル人ナリトセリ。ヨコブスベキス氏及ベ
シテルセーゲルスゾーン氏ハ將軍ニ拜謁セリ。
其進呈品モ嘉納スル所ト為セリ。則チ日本ニ請
願スルノ諸件ヲ書記シ之ヲ執政コセキエエシ
ドノノ手ニ托シ江戸ヨリ歸来ノ時ニ方テ其詩

戸ヨリ航行セシマアルヲ以テ大ニ船事ヲ解セ
リ。且ツ荷蘭人勇壯ナル戦争ノ状。及全印土ニ於
テ商業銳敏ナルノ情ヲモ聞知スル所アルヲ以
テ。詳カニ領察スル所アリ。決シテ疎意ニ出ルニ
非サルヲ知ル。明朝速カニ聽ニ達シ。時日ヲ徒過
セスシテ。謁見ノ順次ヲ整頓スヘキナリト而シテ
阿蘭使節ノ為ニ必要ナル諸事ニ注意周旋セリ。
翌日使節サダドノノ邸ニ就キ進寄スル所左ノ
如シ。緋羅紗九尺。黑色ノ絹ゴロラクレンニ卷。畦織
一卷。黑色緞子一卷。白海黄五卷。硝子鑿三十。年銃

一。扶桑角ヲ添フ。進寄品速カニ受納サル。但シ其
例外ニ出ルヲ告ク。就中阿蘭人始テ江戸ニ来リ。
不可測ノ遠路ヲ經過シタル。其勞其費莫大ナル
ヲ察スト又曰ク。昨朝卿等来着ノ儀ヲ幼君ニ言
上セリ。大ニ満悦スル所タリト。
會話半時ヲ費ヤセリ。サダドノ阿蘭聯邦ノ事情
ヲ問フ。詳悉ニシテ。一小國ニシテ歐羅巴ノ一大
王國ナル西班牙ト戦争シ。能ク之ニ抗セルノ勇
氣ヲ賞讃セリ。且地球上萬國散布スルノ状。及日
輪ノ出没スル所等ヲ問フ。此等ノ說解中ニ使節

拜謁
献上品

ヲ饗應スルニ日本式ノ各種珍味ヲ供セリ更ニ
老年ニシテ運歩意ノ如クナラサルニ強テスベ
キス氏及セーゲルスゾーン氏ヲ戶外ニ誘ヒ午後登
城謁見セシムヘキヲ約セリ
サダドノ言ヲ食セス午後二時城内ニテ幼君ニ
拜謁セリ献上品左ノ如シ緋羅紗一卷半緋サア
イ織物一卷綠色カフア本綿ノ織物黒色ノ花樣
アル者十五尺紅色ノカフア亦黒色花樣アリ九
尺緞子一卷金色羅紗一卷ノールウエーゲン製ノ
カールペツテン荷物ヲ包ムホ綿五卷薔薇ノアル縹

子一卷畦織絹ノゴロフクレニ一卷象牙三本織
物ノ見セ本百斤火繩銃一挺手銃二挺藥角ヲ漆
ノ硝子罍五本鉛數磅ナリ幼君ハ此献上品ヲ嘉
納シ鳴謝セリ然レモ此僅少賤額ノ物品ニ向テ
高貴人ノ禮言ヲ賜フハ慙愧ニ堪ヘサル所ナリ
但シ聯邦阿蘭ニ於テハ數萬里ノ海ヲ航シ多ク
ノ辛苦ヲ犯シ未テ貿易親交ヲ請願スルニ方テ
大ニ面目ヲ絶コシ鄙意ヲ慰スルニ足ルトスル
所ナリ幼君ハ言辭終テ頭ヲ傾ケタリ既ニノサ
ダドノ侍臣等スベキス氏及セゲルスゾーン

拜領物。

氏ヲ案内シ宮殿ヲ出テ城外ニ誘導セリ而ノス
ベキス氏ニ賜フ所驛途馬道中先觸狀ホルク日
本ロイチングニ時辰二十カツタヘ一ナリ又セゲル
スソーン氏ニ賜フ所ロイチング一時辰十カツ
タヘ一ナリ蓋シ以テ非常ヲ戒ムルノ警固ノ為
ニスル所ナリ

三 其後使節ハ平戸候ノ第ノ饗應ヲ受タリ船ヲオ
ムモゴウ港ニ曳ントスルノ企アルカ故ニサダ
ドノハガレイ走ル船トニテ一艘バルク長ク狭
キ舟ヲ旅具ノ為ニ供セリ江戸ニテ此ノ如キ懇

切ナル接遇ヲ得シハ他國人ニハ絶テナキ所ナ
リ是ヨリ少時前ニ西班牙使節ハ大ニ行装ヲ飾
リテ通行セリ然レモ謁見ヲ賜フノ前ニ數日ヲ
消セリ且接遇簡易ナリ八月二十五日スベキス
氏及セゲルスゾーン氏上ニ記スルノ船ニテ出帆
セリ其夜オムモゴウ港ニ着船スウイルヘムアダ
ムス氏ノ家ニ一泊ス一船アリ暴風ニ遇テ低岸
ヲ疾走セサルヲ得ルヲ見ル是速カニ救ハサレ
ハ日本北方ニ漂流スヘキ者ナリ
則チ西班牙人ノ墨西哥ヨリ日本ノ漂流人ヲ護

送スル所ナリ。抑モ此日本人ハ往時ロドリゴデリ
ジウレニ隨テ新西班牙ニ渡航シ其地ニテ大ニ
厚遇ヲ受ケ西班牙王為ニ九萬レアレシ一レアル
イフル半ニ當ル一ストイフルハ我ニ錢〇一毛
六六ナルヲ以テ大畧三千五百円以上ナリ。
ヲ費シ更ニアカヒユルカヨリ墨西哥ニ送ルニ
巨額ヲ消シ且貴價ナル四輪象車ヲ贈寄スル所
ナリ。

阿蘭人ニ名此船中ニアリ則チ其説ク所ヲ聞ク
ニ西班牙人マニラヨリ未詳ノ南地ニ於テ新
ゴイネアヲ發見セリ。穩和ナル地方ナリ人口衆

多。食料ニ富ミ肉豆蔻及金ヲ産スニ土人アリ。此
地ヨリ竊カニマドリツトニ向テ密賣ス新ゴイ
ネアヲ發見スルニ由テ更ニ大利ヲ得ンカ為ニ
マニラヨリ一航路ヲ開キ多人ヲ移シ諸事ヲ
調理シ土人トカヲ合セテ大ニ海洋ニ殖民セン
ト欲スル所ナリ。
指揮官ハ上ノ船ニ兵卒三人ヲ載ス是スベキス
氏及セゲルスゾン氏相尊敬シテ懇親ヲ結ベ
リ次テ多数ノ舟ヲ舩シ西班牙船將ヲ慰ハル為
ニ供セリ。然レモ荷蘭使節ハ謂ラク彼自ラ來テ

先ヲ余ヲ訪フ一シト集會後日ヲ期セリ
西班牙人日本將軍御所様ニ書ヲ捧ケ其船ノ日
本港ニ入ルノ許可ヲ請フ蓋シマニルヲヨリ新
西班牙ニ赴クノ船舶屢颶風ノ為ニ漂流シ其損
害ヲ蒙ムル一些少ナラス若シ日本人之ヲ許可
セハ恩惠莫大ト云フ一シ然レ日本海岸ハ低
キカ故ニ之ニ適スルノ地ナシ何ノ港ヲ可トス
ルヤヲ知ラス更ニ日本ニ於テ船ヲ製造セシ
ヲ請フ蓋シマニルヲ及新西班牙ニハ船材ニ供
ス一キノ良材ナク又之ヲ構造スルニ適スル良

兩使駿河ニ
歸ル

近ナキヲ以テナリ
阿蘭使節ハ告別シテ後途ヲ速カニシ大磯及藤
澤ヲ過テ駿河ニ達シ八月二十九日正午少前ニ
馬上ニテ之ヲ通過セシニ觀者堵ノ如シ其容貌
甚夕奇異ナリ他地ノ平民皆然リ頭頂ハ大半髮
ヲ剃除スル一坊主ノ如シ後頭ニ於テ髮ヲ束ネ
テ締フ其既ニ結婚スル者ハ鬘ヲ具ス未ク婚セ
サル者ハ否ラズ日本外套ヲ被ル望テ膝ヲ過キ
足ニ及フ外套ハ廣キ紐ニテ結フ但シ自在ニ用
閉ス一帯間ニ左側ニ於テ小刀ヲ挾ム之ヲ尺

ヲ許可サルノ免許信牌ヲ一見センヲ請ハシ
ノタリウヰルヘムアダムス氏其副本ヲ携ヒ来レ
リ。文言本書ニ異ナル所ナシ。唯未タ調印セサル
ノミ。是今日遲クモ明朝調印スヘシト。
後一ノ日本人我カ旅宿ヲ訪フアリ。是一小船ノ
主ナリ。曰ク曾テ船將ウイツテルト氏ニ隨ラマニ
ルヲ航スル所ニ和蘭人多衆ノ為ニ災難ヲ蒙
ムレリ。但シ是西班牙人及葡萄牙人ニ關涉スル
事ニテ余カ知ル所ニアラサルナリ。然ルニ日本
人併セテ其損害ヲ蒙ムレリ。此事若シ我日本將

軍ノ聽ニ達スルヲアラハ必ラス和蘭人ヲ德ア
リト為サハルヘシト云々。



